

資料 3 - 1
(別添資料)

3. 地域包括支援センターの運営について

(1) 平成 29 年度の実績について

(別添資料)



加賀市健康福祉部長寿課

平成 30 年 6 月 21 日

加賀市地域包括支援センター (基幹型・サブセンター・ブランチ) 評価

平成 28 年 3 月

加賀市地域包括支援センター（基幹型・サブセンター・ブランチ）評価

1. 評価目的

加賀市が目指す地域包括ケアシステムの構築において、加賀市地域包括支援センター基本方針・運営方針に基づき、より身近できめ細やかな高齢者の見守りや相談、支援等を効果的に行うため、身近なところで相談を受け付け、地域包括支援センターにつながるための窓口となる、業務委託している地域包括支援センターブランチ及び地域福祉コーディネート業務（以下「ブランチ」という。（友人やご近所、世話焼さん、地域団体、ボランティア等といった支援の担い手とのコーディネートや地域福祉活動の後方支援等を行う地域福祉コーディネート）と基幹型地域包括支援センター（サブセンター含む）（以下「基幹型」という。）業務について、一定の基準にて評価し、その結果を活かしてより良い運営・実践に向けた取組みを推進することを目的とする。

2. 評価期間・回数

毎年度1回、下記に定める評価を実施する。

3. 評価の仕組み

加賀市高齢者分科会（加賀市が設置する高齢者分科会は地域包括支援センター運営協議会の機能も兼ねている）において2つの視点で評価する。

- (1) 運営内容を確認するための基準チェックシート
- (2) 事業実施方針を具現化するための実践チェックシート

4. 評価の流れ

- ・ブランチにおいては、事業所内の事業責任者及び管理者必須のもと、ブランチ業務にかかわる職員と基幹型地区担当職員とチームで取り組むことを基本とする。
- ・評価に関しては、運営推進会議に諮り地域住民の意見ももらい、改善すべき事項については業務や取り組みに反映していく。

5. その他

- ・これまでの実績や目指すべき目標については、数値化し達成率が「見える化」できるようにした。
- ・毎年度、評価項目は実践状況及び高齢者分科会の意見も踏まえて、見直しを行う。

加賀市地域包括支援センター評価におけるガイド

加賀市地域包括支援センター基本方針・運営方針等より基幹型及び業務委託しているブランチ及び地域福祉コーディネート業務（以下「ブランチ」という。）の評価すべき事柄を抜粋し、評価の視点等と捉える。

◆地域包括支援センターの目的

センターは、「地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保険医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的として、包括的支援事業等を地域において一体的に実施する役割を担う中核的機関として設置する。（介護保険法第115条の46第1項）」

◆目的を達成するための視点

1. 総合性

高齢者の多様な相談を総合的に受けとめ、尊厳ある生活の継続のために必要な支援につなぐこと

2. 包括性

介護保険サービスのみならず、地域の保健・医療・福祉サービスやボランティア活動、支え合い活動などの多様な社会資源を有機的に結び付けること

3. 継続性

高齢者の心身の状態の変化に応じて、生活の質の確保を目指し適切なサービスを継続的に提供すること。その際、現在の継続性のみならず、過去、現在、未来の時間軸で高齢者の生活の継続性を見ることが必要

4. 予防性

地域の特性（高齢化率の推計、世帯形態など）、地域住民の声の把握などをもとに、地域における将来の課題を見据えた予防的対応をすること

◆基本的な取り組み方針（期待される機能）

1 高齢者が健康で自分らしい生活を継続することができる支援を行う。（総合相談機能）

誰もが住み慣れた地域で生活を続けられることを望んでいる。しかし、高齢になると疾病や身体機能の低下や環境の変化により、これまでどおりの自分らしい生活を続けていく事が困難になることが多い。それらの生活課題に対して、本人の力や工夫で解決できることや家族や友人、民生委員等高齢者本人のなじみの関係いわゆるパーソナルサポートネット（軒下マップ）の中でそれまで本人が培って環境上での支援を基本とする。その際、これまでの暮らしを見据えた支援が必要となる。センターは、地域に暮らす高齢者の総合的な相談窓口として、24時間、365日の相談体制を確保する。

2 地域におけるネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）を活用し、地域で暮らす高齢者の生活を支える。（地域のネットワーク機能）

本人のニーズに応じて、介護保険サービス等の公的サービスのみでなく、地域の保健・医療・福祉サービスや地域住民参加型の家事支援サービス等の生活支援サービス、さら

に地域の支え合い活動やボランティア活動を含めた地域における様々な社会資源をつなぎネットワークを構築する。その調整役も含めきめ細かな相談・支援を行う。

3 チームアプローチにより基本業務を行う。（包括的・継続的マネジメント支援機能）

センター配置の専門職だけで、生活における困り事が解決できることは少なく、本人の「地域での望む暮らし」の実現に向け、高齢者本人が「支援される人」専門職が「支援する人」という関係ではなく、高齢者本人や家族等もチームの一員として、多様な視点から問題の解決を図り、包括的に高齢者を支える“チームアプローチ”の考えとする。

◆事業実施方針に関係すること

1. 地域包括ケアシステム構築方針

1) 地域包括ケアビジョン

「予防」

誰もが自らの将来に関心を寄せ、健康の維持・増進に取り組み、身近な地区の中で、生きがいや居場所のある今日と同じ明日を迎えることができるまち

「医療」

どんな環境や場所にしようと、住みなれた自宅や地域において、生活に沿った最適な医療により、最期まで本人の望む生活が続けられるまち

「介護」

本人の人生やこだわりを寄り添い、最期まで尊重し、「できる力」を生かしながら住み慣れた地域で歩み続けることができるまち

「生活支援」

本人の望む暮らしの実現のために、向こう三軒両隣のお互いさまの関係の中で、持っている力を発揮し、さらなる助け合いが生まれるまち

「住まい」

誰もが、最期まで住み続けることができるまち

第6期加賀市介護保険事業計画基本目標に基づき、高齢者を支援する取り組みを展開する。

〈基本目標〉

- ・本人の「したい」ことを支援する仕組みづくり
- ・地域での支え合いの体制づくり
- ・地域で安心して生活できる体制づくり

2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針

- ・独居世帯等の高齢者や加賀市介護予防把握事業該当者の生活状況の確認
- ・社会的活動（ボランティア等）を希望する高齢者の把握
- ・上記の対象者から地域の状況を把握し住民ニーズに即した業務等の企画立案

3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針

- ・住民や高齢者を含め地域の関係者を集めて、地域ケア会議の開催で把握した地域の課題を共有するための勉強会やワークショップの開催
- ・医療・介護等の多職種が集まる研修会への参加を促進

4. 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針

- ・要支援者および事業対象者の自立支援とチームケアの向上のため、介護予防と日常生活支援の効果的なケアマネジメントの推進（目標設定会議の開催）
 - ・指定介護サービス事業所の活用に加え、住民主体の通いの場等の活用を推進
5. 介護支援専門員に対する支援・指導の実施方針
- ・個別相談を受ける体制の確保(窓口の設置等)
 - ・介護支援専門員の資質向上のためケアマネジャー連絡会(加賀市介護サービス事業者協議会事務局)開催の後方支援と主任介護支援専門員勉強会の開催
 - ・困難ケース検討会、個別地域ケア会議の開催の後方支援
6. 地域ケア会議の運営方針
- ・本人の生活に資する支援について検討する「個別地域ケア会議（軒下会議）」の開催
 - ・地域課題について検討する「地区単位地域ケア会議」の開催
7. 市町村との連携
- ・基幹型とブランチが連携のための連絡会議の定期開催
8. 公正・中立性確保のための方針
- ・居宅介護支援事業所等を紹介した記録の管理（相談業務のシステム管理）
 - ・毎年度の事業実施状況は地域包括支援センター運営協議会で報告を行う。
 - ・加賀市は、自らその実施する事業の質の評価を実施することとその他の措置を講ずることにより、その実施する事業の質の向上に努める。加賀市はブランチの毎年度の事業実施状況（取り組み状況、公正・中立性の確保、実績報告の月単位での提出状況等）の提出及び自己評価をもとに評価を行う。
9. その他地域の実情に応じて、運営協議会が必要であると判断した方針
- ・地域で必要性の高い事項について、基幹型とブランチが随時協議、確認し役割分担に努める。

記入日 平成 年 月 日

事業所名 _____

◆運営内容を確認するための基準チェックシート／ランチ評価シート

1. 職員の適正配置		
	・ランチは実施要項に示す職員を 0.5 人以上配置している (相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均 1 日 3 時間の業務の実施)	はい・いいえ
2. 必要書類の作成と確実な提出		
	・定められた記録(提出物)を期日までに提出している	はい いいえ
3. 専門性の確保		
	・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている	はい いいえ
	・市主催の研修に、参加している	はい いいえ
	・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている	はい いいえ
4. 緊急時の体制整備		
	・夜間・休日、緊急時を含めて 24 時間 365 日の対応ができるようにしている(連絡網の整備含む)	はい いいえ
5. 苦情解決体制の整備		
	・苦情受付担当者・責任者・第 3 者委員を利用者にわかるように表示している	はい いいえ
	・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している	はい いいえ
6. 個人情報の保護		
	・利用者に関する記録の適切な保管が定めている	はい いいえ
	・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している	はい いいえ
	・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している	はい いいえ
7. ネットワークの構築		
	・ランチ連絡会に参加している	はい いいえ
	・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている	はい いいえ
	・基幹型(地区担当職員)と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている	はい いいえ
8. 総合相談		
	・総合相談の実件数が、75 歳以上の高齢者数の 1 割程度ある(基幹型・ランチあわせて)	はい いいえ
	・総合相談実件数のうちランチ訪問実件数が、50%程度(同行含む)ある	はい いいえ
	・総合相談延件数のうち訪問延件数が 30%以上	はい いいえ
	・直接、ランチへの相談件数が開始時より増加している	はい いいえ
	・訪問実人数のうち軒下マップ作成が 70%以上(作成数: 件)	はい いいえ
	・ランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている	はい いいえ
9. 介護予防		
	・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見通しについて説明している	はい いいえ
	・介護予防(認知症含む)の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる(1 回以上)	はい いいえ

10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援		
	・地域包括支援センターランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている	はい いいえ
	・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ランチの所在や役割等を広報している	はい いいえ
	・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に出向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる	はい いいえ
	・ランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている（運営推進会議含む）	はい いいえ
11. 中立・公正性の確保		
	・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている	はい いいえ
	・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営を行っている	はい いいえ

◆基幹型・サブセンター評価シート（追加分）

12. 認知症高齢者支援		
	・地域関係者から認知症と思われる高齢者の相談を受け、継続的な支援ケースがある	はい いいえ
	・専門機関から認知症と思われる高齢者の相談を受け、継続的な支援ケースがある	はい いいえ
	・認知症高齢者相談に対し、状況を把握しアセスメントのうえ適切な支援を行っている	はい いいえ
13. 権利擁護・虐待防止		
	・通報を受けた場合、通報受理簿を作成し、地域包括支援センターや市役所担当者と連携し、対応記録を整理している	はい いいえ
	・権利擁護等に関する相談に対し、適切に対応している	はい いいえ
14. ランチとの連携		
	・地域の支援関係者に対して、ランチ活動の理解と利用促進に取り組んでいる	はい いいえ
	・ランチとの連携のため定期的なランチ連絡会及び勉強会を開催している	はい いいえ
	・上記1～11に対して、ランチの後方支援をしている	はい いいえ
15. 包括的・継続的マネジメント支援		
	・介護支援専門員等の抱えている困難事例等の相談に対して窓口を設け随時相談している	はい いいえ
	・介護支援専門員等の連絡会及び勉強会の機会を直接開催もしくは後方支援している	はい いいえ
	・介護支援専門員等と民生委員等の地域福祉活動団体等のネットワーク構築のための取り組みを行っている	はい いいえ

◆事業実施方針を具現化するための実践チェックシート／ブランチ評価

スタッフ個別評価・様式

実施
日

平成 年 月 日

1. 地域包括ケアシステムの構築方針

氏名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

前回の改善計画

個人チェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない
①	前回の課題について取り組みましたか。				

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない
①	住民からの相談に対し、保留にせず、懇切丁寧に対応していますか。				
②	本人の「できる力」を活かした支援や住民が介護予防につながる取り組みや推進を行っていますか。				
③	住民を巻き込んで、地域で高齢者を支える取り組みにつながる活動をしていますか。(後方支援も含む)				

できている点

できていない点

なぜ？どうして？できていないのか？（その理由）

改善策

◆事業実施方針を具現化するための実践チェックシート／ブランチ評価

スタッフ個別評価・様式

実施日	平成 年 月 日
-----	----------

2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針

氏名	
----	--

◆前回の改善計画に対する取組み状況

前回の改善計画	
---------	--

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 前回の課題について取り組みましたか。				

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 担当地区の独居世帯や介護予防把握事業該当者等の高齢者の数及び生活状況を把握していますか。				
② 上記の高齢者の生活状況や地域から得た情報をもとに課題及びニーズ把握していますか。				
③ 担当地区の社会的活動（ボランティア等）を希望する高齢者やグループの数を把握していますか。				

できている点	
--------	--

できていない点	
---------	--

なぜ？どうして？できていないのか？（その理由）	改善策
-------------------------	-----

◆事業実施方針を具現化するための実践チェックシート／ブランチ評価

スタッフ個別評価・様式

実施日	平成 年 月 日
-----	----------

3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針

氏名	
----	--

◆前回の改善計画に対する取組み状況

前回の改善計画	
---------	--

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 前回の課題について取り組みましたか。				

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 不安や心配を抱えるまたは支援を必要とする高齢者の「軒下マップ」を作成していますか。				
② 高齢者の「軒下マップ」からつながりが途切れそうな人や場所等に対してアプローチをしている。(基本チェックリスト者含む)				
③ 作成した軒下マップをもとに「個別地域ケア会議（軒下会議）」を開催していますか。				
④ 専門職（介護事業者・医療関係者等）と民生委員、地域住民等との基幹型と協働し地区単位地域ケア会議を開催していますか。				

できている点	
--------	--

できていない点	
---------	--

なぜ？どうして？できていないのか？（その理由）	改善策
-------------------------	-----

◆事業実施方針を具現化するための実践チェックシート／ブランチ評価

スタッフ個別評価・様式

実施日	平成 年 月 日
-----	----------

4. 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針

氏名	
----	--

◆前回の改善計画に対する取組み状況

前回の改善計画	
---------	--

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 前回の課題について取り組みましたか。				

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 不安や心配を抱えるまたは支援を必要とする高齢者に、地区内で実施されているおたっしやサークル等の周知をしていますか。				
② 不安や心配を抱えるまたは支援を必要とする高齢者が、おたっしやサークル等に参加できていますか。				
③ 必要時、要支援者及び事業対象者のケアマネジメントの一員としてチームケアの向上に努めていますか。				

できている点	
--------	--

できていない点	
---------	--

なぜ？どうして？できていないのか？（その理由）	改善策
-------------------------	-----

◆事業実施方針を具現化するための実践チェックシート／ブランチ評価

スタッフ個別評価・様式

実施日	平成 年 月 日
-----	----------

5. 地域福祉コーディネート業務について

氏名	
----	--

◆前回の改善計画に対する取組み状況

前回の改善計画	
---------	--

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 前回の課題について取り組みましたか				

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない
① 不安や心配を抱えるまたは支援を必要とする高齢者からの相談に対し、安易に介護保険サービス等に結び付けていませんか。				
② 要支援者等の担当のケアマネジャーからの問い合わせに関しても、把握している地域資源の情報提供を行っていますか。				
③ 地域福祉コーディネート機能を発揮し、自地区の把握した地域資源のマップや一覧表を作成していますか。				

できている点	
--------	--

できていない点	
---------	--

なぜ？どうして？できていないのか？（その理由）	改善策
-------------------------	-----

基幹型

平成29年度 運営内容を確認するための基準チェックシート/評価シート

チェック項目		記入日・担当者	記入日	包括担当名
			平成30年3月26日	山下所長、西補佐、東出係長
12. 認知症高齢者支援				
「はい」「いいえ」の理由とよりよい取り組み方策				
①	・地域関係者から認知症と思われる高齢者の相談を受け、継続的な支援ケースがある	はい	いいえ	医療機関からの相談、ケアマネジャー等の専門機関からの相談や地域住民や民生委員、大家等からの相談も総合相談としても対応し、定期的な見守り支援も訪問員により対応している。状況把握は身体・生活能力を表した「生活機能行為表」や本人との関係する人や場所のつながりを表した「軒下マップ」を様式として活用している。困難事例については、定期的な事例検討を行っている。また、認知症初期集中支援チームも設置し、専門医のいるチーム員会議で支援方針のアドバイスがもらえる仕組みとなっている。
②	・専門機関から認知症と思われる高齢者の相談を受け、継続的な支援ケースがある	はい	いいえ	
③	・認知症高齢者相談に対し、状況を把握しアセスメントのうえ適切な支援を行っている	はい	いいえ	
13. 権利擁護・虐待防止				
①	・通報を受けた場合、通報受理簿を作成し、地域包括支援センターや市役所担当者と連携し、対応記録を整理している	はい	いいえ	権利擁護支援や虐待支援に関しては包括システムで記録を管理している。相談を受けた後は、虐待リスクについて、「事実確認票」を活用し、緊急性の判断を行っている。週1回定例で虐待ケース検討会を長寿課・包括内で開催し、全相談件数を諮っている。またケースの状況により、医療機関、ふれあい福祉課、地域福祉課等も参加し支援方針の検討、共有、役割分担を行い対応している。
②	・権利擁護等に関する相談に対し、適切に対応している	はい	いいえ	
14. ブランチとの連携				
①	・地域の支援関係者に対して、ブランチ活動の理解と利用促進に取り組んでいる	はい	いいえ	地域の各種団体（民生委員、まちづくり推進協議会、サークル、老人会等）へ共に顔を出し啓発の支援を行っている。ブランチ間の連携支援のために、月1回全体で連絡会、月1回の圏域単位のブロック連絡会を開催、事例検討を通じた勉強会を実施している。また、困難事例については、同行訪問し一緒に支援方針を考えたり、事例検討したり、後方支援をしている。
②	・ブランチとの連携のため定期的なブランチ連絡会及び勉強会を開催している。	はい	いいえ	
③	・上記1～11に対して、ブランチの後方支援をしている。	はい	いいえ	
15. 包括的・継続的マネジメント支援				
①	・介護支援専門員等の抱えている困難事例等の相談に対して窓口を設け随時相談している	はい	いいえ	困難ケースや虐待疑いケースについて随時電話、窓口相談に応じ必要時ケース会議を開催している。勉強会などは、H27より主任介護支援専門員勉強会、中堅職員研修会の開催を継続して実施している。また、加賀市介護サービス事業者協議会の各サービス種別ごとの連絡会等の企画運営の後方支援もおこなっている。各団体とのネットワークづくりにおいては、ケースを通して民生委員や老人会、地域おたっしやサークル等へ働きかけるよう、助言、提案した。実際に介護支援専門員が、民生委員と連絡をとったり、地域おたっしやサークルへ出向いたりしている。
②	・介護支援専門員等の連絡会及び勉強会の機会を直接開催もしくは後方支援している	はい	いいえ	
③	・介護支援専門員等と民生委員等の地域福祉活動団体等のネットワーク構築のための取り組みを行っている	はい	いいえ	
総評	※全体をとおして要約して記入		平成18年度より地域包括支援センターを直営で設置し、平成27年度より高齢者の身近な相談窓口体制の構築のため委託によるブランチの設置拡充を行ってきた。基幹型包括およびブランチが取り組みべき方向性を共有するために、基幹型及びブランチの評価項目をはじめ基本方針・運営方針を明らかにした。今後も、ブランチと地区担当職員により相談機能の強化及び地域福祉活動支援を行う。また、ブランチの訪問活動から把握した地区の課題が解決できるよう、住民と一緒に考える場の設定を行い、具体的に取り組んでいきたい。また、平成28年度加賀市医療センター開院に伴い、医療と介護の連携、認知症施策をサブセンターで実施し、医療機関からのタイムリな一相談体制になっている。また、認知症初期集中支援チームの設置、主任介護支援専門員勉強会、中堅職員研修等とおして専門職の育成支援と認知症ケアパス検討会や介護予防教室等を通して、専門職と地域住民とのネットワーク構築へもつなげていく。	

ランチ

平成29年度 運営内容を確認するための基準チェックシート/評価シート

チェック項目	地区・記入日	大聖寺地区		南郷地区	山代地区	
		大聖寺なでしこの家	きょうまち	なんごうえがお	山代すみれの家	ききょうが丘
		平成30年3月15日	平成30年3月22日	平成30年3月31日	平成30年3月18日	平成30年4月9日
1. 職員の適正配置						
・ランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		はい	いいえ	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	いいえ	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第三者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	はい	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		はい	いいえ	はい	はい	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	はい	はい	はい	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ランチあわせて）		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談実件数のうちランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	はい	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（112件）	はい（121件）	はい（30件）	はい（141件）	はい（103件）
・ランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている		はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見直しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい	はい
・ランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

ランチ

平成29年度 運営内容を確認するための基準チェック

チェック項目	地区・記入日	庄地区	片山津地区	金明地区	橋立地区
		いらっせ庄	いらっせ湖城	きんめい	はしたて
		平成30年3月31日	平成30年3月23日	平成30年3月22日	平成30年3月31日
1. 職員の適正配置					
・ランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出					
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		はい	はい	はい	はい
3. 専門性の確保					
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備					
・夜間・休日・緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備					
・苦情受付担当者・責任者・第三者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	はい	いいえ	はい
6. 個人情報の保護					
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築					
・ランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		いいえ	はい	いいえ	はい
8. 総合相談					
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ランチあわせて）		いいえ	はい	いいえ	はい
・総合相談実件数のうちランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい
・直接、ランチへの相談件数が開始時より増加している		いいえ	はい	いいえ	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（12件）	はい（106件）	はい（22件）	はい（70件）
・ランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている		はい	はい	はい	はい
9. 介護予防					
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見直しについて説明している		はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援					
・地域包括支援センターランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい
・ランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保					
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい

ブランチ

平成29年度 運営内容を確認するための基準チェック

参考資料

チェック項目	地区・記入日	動橋地区		作見地区		山中地区
		動橋ひまわりの家	いらっせ分校	いらっせ松が丘	さくみ	お茶の間さろん
		平成30年3月26日	平成30年3月26日	平成30年3月15日	平成30年2月5日	平成30年3月27日
1. 職員の適正配置						
・ブランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		いいえ	はい	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第三者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	いいえ	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ブランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	いいえ	はい	はい	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ブランチあわせて）		はい	いいえ	はい	はい	はい
・総合相談実件数のうちブランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ブランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	いいえ	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（59件）	はい（13件）	はい（106件）	はい（49件）	はい（104件）
・ブランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている		はい	いいえ	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見直しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターブランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ブランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい	はい
・ブランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	大聖寺地区こころまちセンター大聖寺なでしこの家
施設管理者	上出 裕美子
事業責任者	上出 裕美子
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	慈豊会の理念「和顔愛語」のもと、大聖寺地区こころまちセンターとしてランチ・コーディネーターの役割をしっかりと自覚して身近な相談窓口としての事業所をめざす。 地域住民から気軽に相談できる事業所、信頼できる事業所でありたい。 助け合い支え合うことの重要性、繋がりの輪の大切さを広めて住みやすい町づくりを目指す。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ活動の趣旨を踏まえながら、職員全員が関わりの経験を積み、軒下マップの作成から地域資源を把握してニーズに答えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で月1回ランチミーティングを開き、事例検討や情報交換、意見交換等を行い、職員全員が連絡帳で内容の共有をしている。訪問時には必ず軒下マップやADL・IADL票の作成を行い現状や状態変化等に気づくように取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーや地域住民、民生委員による直接の相談件数が増加してきており、相談内容を伺い、訪問することが柔軟にできている。訪問することで民生委員や地域住民との連携、繋がりが出来てきている。安易にサービスに繋ぐことではなく軒下マップから見えてくる繋がりがや本人の出来ること、強みに注目し、閉じこもり防止の視点からも「おいでさくら」や「地域型はつらつ塾」等、地域活動参加の声かけも行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の立場としては、ランチ活動で得た情報（日中心配な人、見守りが必要な人、何らかの関わりが必要等）を共有していたらと思う。特に、独居の高齢者は民生委員として訪問し把握しているが、家族はいるが日中独居になる方の情報が全く解らない事がある。しかし、日中独居になる方の中にも生活に不安を抱えている人も多い。お互いに気になる事や困り事を相談しあえることで、対応ができる。今後、より密な情報共有で連携の体制作りができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者（元気はつらつ塾、かがやき予防塾卒業生）等、活動意欲を持っている人達とともに、大聖寺の活動に参加していきたい。 ・ランチで知り得た情報は民生委員や区長とも共有し予防支援に繋げていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者の把握が乏しいため、介護予防基本チェックリストのハイリスク訪問などで把握した方や訪問した方を地域マップに印をつけ、地区全体を視覚で確認できるマップを作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリスト訪問や、地域の方との交流から得た情報等から地域マップに、一人暮らし、高齢者世帯、同居世帯、に色分けにする計画はしているが、今はランチのある町内のみとなっている。 ・「おいでさくら」や「地域型元気はつらつ塾」の立上げ時には地区の高齢者の現状を話す事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ大聖寺圏域のランチ、地域包括支援センターとともに、大聖寺地区づくり推進協議会の役員に対しランチで訪問状況を説明し、地域型元気はつらつ塾の必要性を伝え、また、「大聖寺地区全域で集まれる場の立ち上げをしたい」という地域の方の声に対しても同じ大聖寺ランチや地域包括支援センターと何度か話しいい参加し、「おいでさくら」立ち上げにむけて活動した。 ・チェックリスト訪問は、すべて訪問出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者になると閉じこもりになることが多い。その理由として、歩いて会場まで行けない問題、金銭的な問題が考えられる。閉じこもっている高齢者をどうして探すのかも問題である。そのためにも地区の方との情報交換、連携が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題としてランチ内で事例検討するだけではなく、フォロー体制をどうするのか、どう支えていくのか、地域マップに落とし込んだ社会資源を活用し自立支援の話し合いも交えて行っていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の訪問だけでは軒下マップの作成は難しいので2回、3回と訪問行くなかで充実を図っていく。 ・事業所の運営推進会議で地域のことを検討していき、地域のために活用していけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所と地域の防災訓練をきっかけに、運営推進会議に新たに民生委員やまちづくり推進協議会の方に参加頂くことが出来た。出席者の方からは「そもそもランチの意味がよく分からない」「チェックリストを返却しない人、自分で相談が出来ない人はどうしているのか」の質問があり、地域で活躍されている方々によりランチ活動を知ってもらうことが大切であると感じた。今後、地域との繋がりが大切な事であると確認し合えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップの作成はできている。訪問を重ね、軒下マップを作っていくことで、地区の社会資源について知ることができた。また、訪問を通して、民生委員やボランティアの方とかわる機会が増えていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅での暮らしに不安を持つ方の相談には民生委員とも連携をとってかかわってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から民生委員や医療・福祉関係との親睦、交流を持つことで協力体制を築いていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺地区こころまちセンターとしてきょうまちと一緒にサロン、サークルに出向きながら、ランチ活動を理解してもらい、身近な相談窓口としての事業所作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうまちと一緒にサークルに出向く事は出来なかったが、「おいでさくら」や「地域型元気はつらつ塾」の立上げに向け包括、きょうまちと協力し地域の方々に大聖寺地区の現状を伝える事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ活動はチームで行っている。 ・事業所が身近な相談窓口として理解されてきている。不安を抱えた高齢者や支援を必要とする方にはサークルの紹介や参加が初めての方には一緒に同行した。 ・必要な人には介護申請手続きを行った。また介護申請だけでなく、地域の社会資源である「おいでさくら」の紹介や総合事業の家事支援サービスを紹介し、つなぐこともできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺地区は人口が多くサークルやサロンの数も多いため、まとめて何かするということは大変である。しかし、一つ一つのサークルは活発に活動しているので、色々なサークルに顔を出すとよいと思う。高齢者になると優しく声をかけてもらおうという。サークルに出向いた際は皆に何か一言声かけがあるとよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺圏域のきょうまちと協力しながら、これまで関係のあるサークルやサロンだけでなく、新たなサークルにも顔を出して支え合い見守りの連携に向けた関係作りを行っている。 ・サークルに出向き、特徴を捉えることで、サークル参加を望んでいる人に対して訪問時に紹介できるようになる。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問には2人体制で行き、情報把握に努め、軒下マップから地域資源マップを作成する。 ・事業所から順次、面接技術の研修に積極的に参加し経験を積んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所での面接技術研修を活かし、相談やチェックリスト訪問には2人又は1人で積極的に訪問している。 ・軒下マップ等から地域資源等を把握し、皆で考え相談者の思いに添えるように努めている。 ・ランチ連絡会、ブロック連絡会、勉強会には職員を参加させレベルアップをめざしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向けランチ勉強会を月1回行い、事例を基に検討や話し合いを行い、スキルアップに取り組んでいる。 ・相談内容をよく理解した上で家族にも状況を説明し、安易に介護サービスに繋げていない。 ・ケアマネジャーへ引き継ぎする時は、基本情報や軒下マップを作成し、情報の引き継ぎをしている。 ・地域の人にランチ活動を知ってもらうため、地区広報への掲載を町に依頼に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区広報を使い、周知することは良いことだと思う。今後も、地区広報を通して今している活動をみんなに知ってもらいたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチで関わった方々の軒下マップから地域の社会資源や地域の協力員をその都度地図に記入し、資源マップを作成していく。社会資源マップを活用して、高齢者が地域で暮らし続けて行けるよう支援していく。 ・運営推進会議の際に、ランチ活動について、参加している方々と話し合う機会を設ける。参加者にとってもランチが身近になり、また参加者からも意見を今後の活動に活かす。 ・地区広報も活用し、地域に活動を周知していく。

平成29年度 加賀市ブランチ評価 統括表

ブランチ名	小規模多機能ホーム きょうまち
施設管理者	西垣 直子
事業責任者	岡島 進
ブランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『自分のため 誰かのために 持てる力を発揮できる町 大聖寺』を目指して、地域で活動されている方達（近所の高齢者、サロンやサークルの活動者、民生委員、ボランティア、ケアバス劇団員）との接点を持ち、ブランチ事業所と関係を構築していく。きょうまちスタッフ全員が地域で活動されている方達から認めてもらえるように、まずは挨拶を積極的に行っていき、町のどこで見かけても声を掛けあえる仲間作りをしていきたいと考えている。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうまちが大聖寺地区高齢者こころまちセンターとして存在している事を地域の方に知って頂くために、職員全員で、地域行事に参加する。顔を覚えてもらい、お互いに挨拶を交わせるような関係を作っていくように努める。 ・地域交流の場として「寺子屋きょうまち」の開催を年間を通して企画し、周知をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「寺子屋きょうまち」年間計画があり、2ヶ月に1回の頻度で地域の住民、ご家族、小学生、民生委員等が顔合わせ出来る場面を作る事が出来ている。また、きょうまち10周年祭を企画し、ボランティア同士の輪を作る機会を設ける事が出来た。 ・きょうまちかわらばんの配布を継続することで、住民から、ご自身の近況をお聞きする事や民生委員からの相談があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下半期の中で地域の方や、ボランティア、地域おたっしやサークルとの交流の機会として、「寺子屋きょうまち」を2回開催出来た。参加者と顔みしりの関係にはなりつつあるが、まだまだイベントのみの交流や、特定のスタッフのみの交流となっている。ブランチの名刺を、地域の方や交流が出来た方に対して、10枚配る事が出来るように積極的に地域住民に声かけを持っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回10周年の企画に参加させて頂き、楽しみをさせて頂きました。私達が出来る事があれば、今後もお手伝いしたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きょうまち」近辺（鷹匠町、福田町、本町、中町、五軒町、仲町等）の町のキーパーソンを把握し、地域での活動の際に、相談しやすい関係になる（資源マップを作り、視覚で把握できるようなツール作成に取り組む）。 ・職員全員が顔なじみとなるように日頃からの挨拶、顔出しを行い、町の情報や相談が入る関係の住民を1～3人増やす。 ・前年と同様に交流の場として「寺子屋きょうまち」の年間計画、茶話会の企画を立て、かわらばんを各町の民生委員に配布し周知を図っていく。 ・電話相談の受付の際に焦ってしまう事があるため、対応のマニュアルの作成、見直しを半年毎に行う。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ把握をするために、関わりが持てている地域住民から丁寧に信頼関係を作っていく。 ・職員の誰もが、挨拶＋一歩踏み込んだ会話（健康の事、楽しみの事、世間話等）を意識的に話かけていく。その結果、相談件数が一件でも多く寄せられるように努力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民から直接相談を受ける事が出来た。 ・職員一人一人が挨拶＋一歩踏み込んだ会話を意識するために、職員カンファレンスなどを通して確認していく。 ・地区の目標「自分のために 誰かのために 持っている力を発揮できる町 大聖寺」を意識して活動する。ボランティア、民生委員、まちづくり推進協議会、運営推進会議メンバーに働きかけ、良き理解者をまずは3人見つけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前自宅に訪問した方が、事業所に相談に来た。「1人暮らしで気持ちが晴れない」という相談に対して、傾聴ボランティアが来る水曜日に顔を出してみてもと提案した。その後もその方にとって、事業所は来やすい場所になった。 ・民生委員からの相談は1人暮らしで日中が不安というケースが数件寄せられている。ブランチとともに考えてくれる地域の方は増えてきたと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私が会長をしているサークルに参加者を紹介してもらったことで、メンバーが大聖寺地区の相談窓口がある事を理解されたみたいだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で、ブランチ活動について学ぶ機会を作る（スタッフ会議の15分程） ・きょうまち近辺の集まった情報から大聖寺地区、またその地区ならではの課題の把握をする。課題の整理をし、かがやき予防塾修了生や、シニア活動応援Mellow加賀と連携を図っていく。シニア活動応援Mellow加賀と交流し、地区の課題を発信する機会として、ブロック連絡会を活用していく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の相談ケースを通じて、地域資源や地域の人との接点を持てるようにしていきたい。 ・運営推進会議参加者に、地区ブランチの話題を出し、1人でも多く関心を持ち、何か出来る事を考える場として利用していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケースを通して、民生委員との接点を持つ事が出来ている。これまで民生委員からの相談がなかったが、民生委員が参加している会合や集まりに参加する機会があった事で、顔を覚えてもらえた事が要因と考えられる。待ちの体勢になりがちだが、現在関わりのあるボランティア、民生委員や引継ぎをしたケアマネージャーとの接点をこちらから声かけし、繋がりを継続していけるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、ブランチ報告の時間を頂き、ブランチ連絡会全体会で報告のあったチョボラ隊のことを報告した。興味を持たれたが、参加者からは、自分自身は大変で難しいという声が上がった。 ・視点の切り替えとして、支援、応援をするということから担い手を見つけるという事を提案し、会議の議題を継続し報告しあっていたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に他町の民生委員を呼び、顔をつなぎをしていく事はいい機会だと思う。 ・新に会議を作る事は負担になる。現在開催されている会議、集まりに顔を出せる関係が出来ると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のケースを通じて各町の民生委員等との顔の見える関係を継続していく。まだ顔の見える関係が出来ていない区長、民生委員、町の協力者にも運営推進会議（年6回の内3回は）に参加してもらい、ブランチ活動について知ってもらおう。 ・軒下マップを利用し、共通する町の協力者や団体を把握する機会を年2回持つ。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「寺子屋きょうまち」を開催することで、地域住民や地域おたっしやサークルメンバーと協働作業をする機会を持ち続ける。また、ブランチから地域おたっしやサークル、おいでサクラに出向き、どのような活動をしているか知り、参加が難しくなった方の把握や、周りからみて心配な方への把握、さりげない訪問へつながればと考える。現在関わりが持っているサークル以外に、一つ以上のサークル、サロンと接点を持ち、地区ブランチの周知を図っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークルで出会った方とは、「寺子屋きょうまち」など事業所のイベントの協力員として参加しており、良好な関係が築けている。 ・新たに交流が持てたサークルは1つだけだが、リーダーとの接点を持つ事ができており、交流する機会がある。今後、心配な方がみられた場合に相談をしてもらえるように接点を持ち続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランチで出会った住民に対して、地域おたっしやサークル、おいでサクラへの紹介をする事ができている。 ・サークルとの交流を通して、お互い相談しやすい関係が出来ている。今後の予定として他のブランチと合同で大聖寺地区の全サークルへ出向き、顔合わせの機会を作っていきたい。 ・大聖寺広報にブランチの紹介を掲載してもらえよう、まちづくり推進協議会に働きかけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか簡単に関係は作る事は出来ないだろうけど、関わり続けることが大切ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「寺子屋きょうまち」の年間計画を立て周知することで、地域住民や地域おたっしやサークルメンバーと協働作業をする機会を持ち続ける。まだ交流のないメンバーと顔なじみになるために、同地区ブランチ2か所合同で、元気はつらつ塾、大聖寺の全サークル、おいでサクラに出向き交流する機会を作る。 ・顔なじみの関係を作ることで、各サークルの参加が難しくなった方の把握や、周りからみて心配な方の把握、さりげない訪問が出来る関係を作っていきたい。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターという言葉で不安を感じる職員に対して事業責任者、管理者と共に、地域住民やランチ利用者宅に訪問を一緒に行う。 ・訪問したスタッフが情報をまとめ、他のスタッフが見ても把握できるように記録方法を勉強していく。 ・情報をまとめる中で、地域住民の1人1人がどのような暮らしをしており、これからどのように暮らしたいか、また自分らしく生活するためのつながり、資源を知っていきけるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業責任者、管理者が訪問に出る機会が多く、まだ職員1人で訪問に行ける体制は整っていない。 ・訪問できる職員を増やすために、事業責任者と同行訪問し、振り返りをくり返し行う必要がある。 ・以前作成した軒下マップをとおして、地域の人、物、事を再度整理できればと考える。まずは出会い、その方を知る事、信頼できる地域の人となれるように心掛けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ業務、コーディネーター業務とは何が違うのか、職員が理解できていない状況がある。 ・これまでの生活を継続していくための相談窓口である事、軒下マップを作成し本人の暮らしを見える化する事、どこにサポートが必要でサポートするには専門的に介入が必要か、ボランティアや地域で対応できることなのかを検討し、出会った方に対しての伴走者、情報提供者、相談者となれるように意識を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加した時に、地域住民が生活がしやすくなるような、お世話係の方、利用できる物、活動できる場所があれば報告したいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺地区住民が生活を送る中で活用している資源を事業所内で地図化していく。例えば運営推進会議（年6回の内3回）で資源についての意見をもらう。資源を知り、活用することが出来るように、スタッフ1、2名で訪問し顔のみえる関係を作る。 ・出会いから専門的な対応が必要になるまでの関わりの経過をみんなで把握できるように、事業所内で事例検討を半年に1回行っていきたい。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	南郷地区高齢者こころまちセンター
施設管理者	南出 明子
事業責任者	南出 明子
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『安心して暮らしていく為に、家族のように1つの輪になる』 そのためには、地域との関係作りでランチの存在を知ってもらう活動や、地区の皆さんが集まれる場所作りに取り組んでいく。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	南郷地区3カ所（南郷町、上河崎町、黒瀬町）の地域おたっしやサークルや地域型はつらつ塾に職員全員が定期的に参加し、その場で参加している方々と交流していき顔なじみの関係を目指していく。	地域おたっしやサークルへの定期的参加は出来ていないが、地域型はつらつ塾には職員全員ではないが毎月訪問している。はつらつ塾協力員の方々と別団体としても事業所へのボランティア訪問で顔なじみの関係作りが出来てきている。その中で、地域おたっしやサークルに参加しなくなった方の相談を受けたり、事業所へ歌のボランティアに来てもらえることに繋がった。	『地域包括ケアシステム』について、事業所として何を指すのかを話し合い出来ていなかった。そのため、何を目標にし、どのような方法で取り組むのかという共通認識が出来ていなかったため、単なるサークルへの参加やチェックリスト訪問になっていた。	老人会や婦人会へも挨拶に行けるとよいと思う。介護により近い状況にある本人や介護者である家族になるかもしれない。老人会では、本人向けのものだけでなく、時々『家族向け』のチラシ等も準備したらよいと思う。実際に介護する側や手続きするのは家族になるので、情報としてもらえると助かる。	今後、黒瀬町・保賀町・中代町の方々に会う機会を増やし、南郷地区全域に相談窓口であることの知名度を高める取り組みを行なう。具体的に、各サークルやサロン、はつらつ塾の担当者を決め2ヶ月に1回は訪問し、各町の老人会や婦人会にも出向いていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	職員全員が地域に積極的に出向く計画をしていく（散歩や小学校や地域のイベントに少人数からでも参加していく）	地域に出向く計画は殆ど出来なかったが、限られた職員ではあるが、地区の防災訓練へご利用者と一緒に参加したり、地域おたっしやサークルにランチPRのため訪問は出来た。まちづくり推進協議会事務局の協力もあり、地区敬老会や健康座談会への参加することが出来た。その時には、地域課題の抽出も出来ているので、地域の一員として取り組み活動に参加していく。	地域おたっしやサークル参加者やはつらつ塾協力員、民生委員で顔なじみになった方々と雑談したり相談がしやすい関係が徐々に出来てきている。実際の声からニーズ把握を行いランチ活動に繋げていきたい。	黒瀬町・保賀町・中代町の3町の知名度が低いということは、南郷地区としても他行事でも課題になっている1つ。高齢者だけのことでなく安心して暮らせるまちづくりの中で課題に上がる事を話し合っていけるとよい。	運営推進会議の中で、地域のニーズや課題を確認し担える役割や活動を地域の参加メンバーの方々と一緒に考え『地域ケア会議』開催を目指していく。課題は高齢者のことに限らず、南郷地区として話し合っていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	なんごうえがお登録者の軒下マップを、担当者職員が作成していくことから始め、軒下マップの見方を学び馴染みのシートとして捉えられるようにする。	登録者分の軒下マップ作成は出来ているが、そこから課題や繋がりを見出したりすることには至っておらず、単なる作成に終わってしまい、馴染みのシートにはなっていない。地域に出向いたり地域の方々と交流の機会を捉えて、ネットワーク作りの活動を計画し、軒下マップ作成に活かせるようにしていきたい。	①なんごうえがお登録者の軒下マップをホワイトボードに表示することにより、職員全員が『軒下マップ』を捉えやすくなった。またその中から、社会資源（ボランティア等）の情報収集の取り組みにも繋がっている。 ②月1回の地域ケア会議を重ね最終的に、地区の民生委員に参加してもらうことができた。	顔の見える関係づくりは大切である。	個人の軒下マップ作成していく中で、重複して聞く人や場所へ出かけ、地域の中で顔の見える関係作りを行いネットワークを広げていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	南郷地区3カ所（南郷町、上河崎町、黒瀬町）の地域おたっしやサークルや南郷地区会館で行っている『地域型はつらつ塾』に職員全員で参加していく。	職員全体で参加することが出来ていない。中堅研修修了者を中心に関わっていけるように、業務担当制にし活動しやすいうようにしていく。	すでに介護予防に繋がる取り組みは数多くあるが、特定の人たちにしか認識されていない現状がある。どのように働きかけていけるとよいかを話し合える場をランチとして考えていきたい。	慣れない職員では、サークルや地域の行事に参加する時に役割があったほうが仲間に入りやすくその場にも居やすい。事前にリーダーさんと打ち合わせして参加する計画してはどうか。	スタッフ全員がはつらつ塾や地域おたっしやサークル等に参加し、どのような介護予防の取り組みを実施しているかを知り、ランチで出会った方に説明できるようにする。参加の際には事前にリーダーと連絡をとり、慣れないスタッフも仲間に入りやすいように役割を担うことで、地域の方々とコミュニケーションを取りやすく工夫していく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	南郷地区の地域資源マップを作成する。	①地区の地域資源マップ作成中であるが、活用出来るように事例を通した勉強会の開催をしていきたい。 ②相談支援事業所からの相談ケースで月1回地域ケア会議を開催している。 ③運営推進会議やランチ相談を通し、サロン立ち上げの声がきかれており、社会福祉協議会から説明をきくことまでは出来ている。今後まちづくり協議会事務局と計画し実現を目指したい。	・中堅研修修了者が3名となり、地域型はつらつ塾、おたっしやサークル、かがやき予防塾の会に参加し、顔の見える関係作りを主に捉え、ネットワーク構築を目指している。その関係からも情報を得て、より使える資源マップを作成していく。 ・サロン立ち上げの必要性は把握しているが、実際の働きかけは出来ておらず、来年度の実現を目指したい。	地域に出向き、顔の見える関係づくりが基本になってくる。	軒下マップを使った事例検討会を重ね、どのような役割や関わりができたらいのかを話し合い、コーディネーター業務の理解を深めていく。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山代地区高齢者こころまちセンター 山代すみれの家
施設管理者	古井 正美
事業責任者	直谷 麻衣
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	山代という地域の中に根付いた事業所になる事で、「相談しやすい場所」として位置づけられるであろう。多くの人たちとつながりを持った事業所になり、どのような方法であれ、自分たちが直接関わったり、出掛けたりしなくても、自然と地域の問題、課題、楽しい事、嬉しい事、素晴らしい事、困っている事などいろいろな情報が舞い込んでくる事業所でありたい。その中で「人と人とをつなぎ合わせられる場所」になればと思います。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・ラジオ体操に来られる方々を含めて、地域の方との関係性をより良くする為にもH27年度におこなっていた食事会を再開していく。 ・家族介護支援事業にて、認知症の理解、認知症の方への対応方法等について講義をする。 ・ラジオ体操の前に、地域の方々は利用者に関わったり話したりする姿が見られる。利用者自身も地域の中の住民「何事も他人事ではない」という気持ちを感じて頂き、今後も小規模の事業所としてお願いしている寿司つくりや食事用意等、「出来る力」を、ランチ事業へも活かしてもらいたい。	・地域の方々との関わりを深める為、食事会再開した。すみれでの食事というだけでなく、地域の方の「どこも行けなく寂しい」という気持ちを聞き、ランチとして利用者と一緒に地域の方との外食ツアーも組んでみた。皆さん喜ばれた。今後も継続予定。 ・事業所の行事「寿司つくり」「おはぎつくり」等一緒に手伝って頂いた。ラジオ体操に来られる方が多く、順番に協力して頂いている。手芸を教えてください、利用者との会話をしてくださる人等、色々な方々が利用者を介して、「出来る力」を発揮する場面がある。ランチとしての担い手作りに活かしていきたい。	「オレンジカフェすみれ」の立ち上げに対して、ラジオ体操に来られる方々が、「何かできることないか」「何か役立ちたい」と積極的に声をかけてくれ、一緒にランチオンマトを作ることが出来た。利用者とのふれあいや普段からの様子を見ながら、認知症など今の自分と利用者を比べながら「認知症をわが事」として捉え、自分たちにとって「優しい街を作っていきたい」という気持ちになってきている。	・ラジオ体操の人も大変多くなってきた。手ぶがぶつかりそうだという意見もある。そのようになつたら、「もう行かない」という風になるのではないかと。という意見がある。 ・「オレンジカフェすみれ」は楽しい。色々な人を誘っている。他の区の友人も3区は良いところだねと言ってくれる。「すみれ」があつてとてもよい地区だと思う。 ・3区であつても知らない人ばかりだったが、このラジオ体操で知り合いになった。だから仲良くなったと思う。若い時は仕事だけ。今では耳不自由な人でも誘っている。出る事も嫌がるけど声掛けあいたい。	・出来る限りフロアを広くして、「すみれのラジオ体操に行きたい」という気持ちが損なわれないようにしていきたい。 ・すみれの家に来られる方々の現状は職員がしっかり受け止め、かつ、3区以外のランチ担当エリアの方々の気持ちも大事に受け止めていく意識を持ち、ランチから声掛けしていきたい。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・地域に出る機会が増えてきたことで、地域の方で声を掛けてくださる方も増えてきた。よって職員自体地域に出掛けることが気軽に増えてきた。今年はもっと多くの社会資源に関わる。まずは、山代ふれあいの会やおしゃべりサロン、かがやき予防塾生との関わり等継続していく。	山代おしゃべりサロン、山代ふれあいの会、アマリスの会(介護者座談会)など社会資源の開発を含め、地域の中に出る機会を多く持つようにした。また今までは一定の職員ばかりが出かけていたが、少しずつ他の職員も地域を意識し、声を掛けるようになってきた。今出向いているサークルには参加しやすくなり、地域の方と話しやすくなっているが、他のサークルにも今後出向いてみたい。地域の方々と、顔の見える関係性を持つ事で地域の課題や傾向を掴んだり、困りごとを持った人たちに社会資源を紹介しやすくなると思う。	・相談やサークル等ランチとして地域に出かけることが多くなったことで、ラジオ体操に来られる方の顔ぶれも新しくなっている。地域のお世話役の方と顔見知りが多くなり、人との繋がりが多様になり、地域の意見等も多く聞けるようになった。今後は、聞いた地域の意見等を色々な人たちと一緒に意見交換できる場があると良い。運営推進会議や予防教室だけでなく、平成29年度から立ち上げた「山代地区をよくする会」を地域住民と協議していく場として位置づけ、地域住民との関係を拡充していきたい。	・ラジオ体操の顔ぶれが3区だけでなく増えてきた。3区だけで固まったらだめだと思う。知らない間に、今までいた人が居なくなっている気がする。1・2区の人たちを寄せつけたい雰囲気になる。気軽に入れるように、もっと、手を広げていきたい。 ・茶話会は月2回しているが、参加される方で新しい方も多くなってきたので、マイクで声掛けて、「一緒に参加してください」と誘った。利用者さんは緊張していたね。 ・個人個人の意思があるのでその人その人のペースで誘ってあげたい。	・どの方でも、どんな場所でも、一人では、参加しにくいので、職員等も同席する等工夫をすることで、和やかなサロンや茶話会になるようにする。 ・参加しやすい雰囲気作することで、茶話会や「オレンジカフェすみれ」等利用者等認知症の方や障がいの方でも緊張なく参加できるような工夫をする。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針	・地域の資源をもっと知り、サークルの人と関係性が豊かであれば、情報提供できる事が多くなる。ランチと関わった方については、すぐに軒下マップを作り、途絶えそうな資源や人との関わりを導くようにしていく。	・ランチが地域との関係性も広がってきたことで、情報の共有がしやすくなってきている。軒下マップを書き足したり、途絶えていた資源との関係も見つけようと努力している。今期は民生委員との関係性を深めるためにも、定例会の参加や役員会の参加など試みた。	「山代地区を良くする会」を立ち上げ、まちづくり推進協議会や区長会、公民館長、民生委員等との関係もより多く持てるようになった。地域の方との交流が増えていき、かつ民生委員との関係性が太くなることで、個々の軒下マップが充実した。来年度は「オレンジカフェすみれ」も活かして、高齢者・障がい者などのネットワークを図れたら良いのではないかと考えている。	・「軒下マップとは何か」を実際のマップを用いて説明した。なじみの関係をマップにし見せたところ、「私の姉にも軒下マップを書かせたい。」「私も書いておきたい」という意見を貰った。 ・この「すみれ」に縁があつて、心強いわ。体操に来れるだけで幸せです。	・軒下マップの作成を通して、本人のつながりを途絶えさせないように、またそのつながりを再構築出来るように、今後も「すみれの家」や「オレンジカフェすみれ」の場を通して、実現させていきたい。また、新しい人に来てもらえるように声掛けしていきたい。
4 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針	・ラジオ体操に来られる方が増えてきたが、15分のラジオ体操の時間だけの来所であり、ランチとラジオ体操の人との関係性が深められない。職員はどうしても声が掛けづら。気軽に話せる関係性を持つためにも、体操後、利用者との会話が弾んだ時などランチとしてお茶会等にお誘いする。	・ラジオ体操に来られる方との関係性もランチとしての意識が、小規模の人たちだけでなく、「地域を見て行こう」という意識に好転している。 ・普段来所されている人から余興を紹介して頂き、楽しみを貰ったり、困った時には話を聞くなど日常会話が良く飛び交っている。 ・「認知症カフェ」のようなサロンの立ち上げなど工夫していきたいと思う。	・3月3日の認知症カフェ「オレンジカフェすみれ」立ち上げにおいて、色々な方からアイデア、意見を聞いた。それぞれが「自分たちの地域」「何か楽しそう」「どんなことが始まるのだろう」等うきうきした様子が伺えた。そのうえで、職員もより多く人と関われるよう意識していく。	・ランチになってから、管理者はどこへでも顔を出しているね。知らない人がいないくらいだと思う。 ・「オレンジカフェすみれ」に参加したいと言う人が多い。	・管理者だけでなく、他職員のことも覚えてもらえるように、サロンやサークルなどは担当制にして、参加出来るようにしていく。 ・「オレンジカフェすみれ」は地域の方々と一緒に企画や運営をしていきたい。また、高齢者だけでなく、子供、障がい者等色々な人との交流を多く持つていく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<p>・この2年間、ランチ事業をしてきたが軒下マップを活かしていない。効果があるのかも分かっていない。事例を通して軒下マップの重要性を話し合う。また事例検討会の回数を積み重ねていく事で、色々な人の思いや関わりの重要性、資源の必要性、そして繋がりが人を支える糧になっていく事を知っていく。</p>	<p>・軒下マップの重要性を職員全員で共有できていない。また、事例検討会も行えておらず、意識不足を痛感する。 ・介護予防教室の開催や認知症キャラバン・メイト活動にて小学校に行くことで、関わりの重要性を知るようになってきている。 ・ランチとして地域を理解しようとする事で、「つながり」が見えて、自然とちょっとした声掛けが出来たり、つなげようという意識を持つようになってきている。</p>	<p>・軒下マップ、資源マップを作る意義や効果など再度確認した。十分には軒下マップを活かしきれなかったと感じるが、来年度に向けて、ラジオ体操に来られる方々に、「軒下マップ」を書いてもらったり、「馴染みの生活」を聞き、これまでよりも「早めの出会い」をもっと活かした活動を行っていきたい。</p>	<p>・ラジオ体操の人も大変多くなってきたが、利用者の男性が知らない間になくなった。どうしたんやろう。でも、近所だし、仲よくしていきたい。この前その男性の人から「入院するし、花の水やりをして欲しいと声掛けられた。水やりしてあげるよ、と言ってあげた。」この会話もこのラジオ体操があったから関係性が生まれ、声かけてくれるようになった。言いやすい人だから。地域のありがたさや。また来なくなった人にも町の中で声掛けてくれている人もいる。優しく声掛けあいたい。</p>	<p>・新たな人が参加しやすくなるよう、すみれの家の前でラジオ体操を試みる。 ・「わたしの暮らし手帳」を地区の方々に書いて頂き、今知り合った人たちのなじみの生活やこだわりなど聞いていく。</p>

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	ニーズ対応型小規模多機能ホームききょうが丘
施設管理者	鹿野 久美
事業責任者	鹿野 久美
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・山代地区の為に何かしたいと意欲のある住民が地域で活躍できるよう、一緒に取り組んでいきます。山代の人たちがここに住んで良かったと思えるような街づくりを住民と共に目標をもって目指していき、できることから一緒に頑張っていきます。 ・いつでもどんなときも立ち寄りやすいランチ事業所として身近な地域に存在し続けられるよう、みんなに優しく明るく安心できる場所になります。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサロンや地域おたっしやサークルへ意識的に向きその活動の様子や参加している人たちの現状を理解する。その上で地域の課題や個別のニーズを把握できるようにする。 ・介護予防拠点を地域のサークル活動や会合の場として開放し事業所へ入りやすい雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山代ふれあいの会やおしゃべりサロンへの参加はどの職員もでき地域に向いて活動することはできた。しかし、参加することの目的に留まり、課題や実態の把握までには及んでいない。拠点の活用については、「お抹茶カフェいっく」等地域住民の行き来が多く、座談会の場やつろぎの時間ができていたようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいの会への参加は登録利用者と一緒に参加していたこともあり、天候が悪い間は参加できなかった。各サロンへの参加も滞ってしまい、課題や実態を把握することまで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークルやサロンへの参加について、参加する目的を明確にしてから参加してはどうか。 ・「地域包括ケアシステムの構築」とはどういうことを具体的にしなければならぬのか。 ・計画等のまとめの言葉が硬くて冷たい感じがする。そのため、取り組みが大変なものではないかと感じる。 ・地域型元気はつらつ塾での参加者からの相談があった事は相談窓口として周知されているということで良いことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お抹茶カフェいっく」や法話を通して地域住民が介護予防拠点を利用する機会があり、参加者から日々の暮らしについての悩みや地域の気になる事に関する相談を受けることがある。住民にとって身近な相談窓口機能を充実するため、参加者の名前を覚え、アンケート調査を実施し住民の声が直接届く工夫をする。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチとして定期的に地域のサークルに出向き地域の方々と顔なじみになり住民との距離を近くしていく。特に独居高齢者の把握をし、サークル以外の場で出会ったときにも声かけや気に掛ける関わりを持てるようにする。 ・地域の活動に参加することでランチのPRを積極的にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に参加しながら独居高齢者の把握まで至っていない。ランチとして参加する目的や意義について、改めて確認し活動していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は地域の活動に参加できていたが後半は思うようにできていない。前半の積み重ねで継続して地域の方との交流はある。地域に向けて関わる時に各職員がランチの目的や役割等を意識しながら活動していくために、ランチでの振り返りや勉強会が必要だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動していて、ききょうが丘の名前は認識されてきていると思う。ランチとして住民にも身近な相談窓口として役割が出来ると思う。 ・「お抹茶カフェいっく」が地域のおしゃべりの場になりつながりの場所になっている。 ・内容が大きく評価しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在つながりのあるサークルやサロンは継続して参加し、それ以外のサークルやサロン（むくげの会、きらきらサロン等）に参加していく。目的としては地域のサロン等の活動を知ること、相談対応時、相談者のニーズにあった情報提供ができるようにする。また、そこに参加している人同士の繋がりを理解し、山代の地域の在りようを感じることにする。 ・軒下マップを活用し、ランチ担当圏域を地区ごとに分けた。チェックリストや新規相談を地区ごとで担当する職員（6名）を決め、地区担当制で相談受付をしていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップを活用した事例検討会を実施し、生活状況の全体の把握や環境や繋がりがから考える生活の視点について理解する。 ・地域ケア会議では参加するだけでなくランチとしての役割や機能をもって意見が言えるよう実践で活動している事、またその中で気づいたこと等を発信していき、地域住民との積極的なディスカッションをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップを活用した全体での事例検討会が実施できていない。生活の視点や周囲との繋がりを意識した関わりとその検証について、より多くの実績や経験を積み重ねていく必要がある。 ・地域ケア会議は住民の意見を理解するのに有効な場であり、今後も積極的に参加し、意見や課題に対して住民と共に取り組める活動を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ勉強会で軒下マップを活用した事例検討会を行った。事業所でもケースについての振り返りを行い、改めて地域福祉コーディネートの役割や目的について確認し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きなれない用語が多いので、具体的な意味が読み取りにくい、地域に出て住民というろんな活動に取り組んでいる事は理解できた。 ・会合に出ている住民はランチの事を良く認識できているが、そうでない人々への認識ができるようになれば必要な人への支援が広がると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山代地区を良くする会」を継続していき、地域有識者や民生委員と地域の事について話し合う機会を絶やさない。また、良くする会で掲げた目標を事業所でも共有し、地域と協働取り組みを実現していく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所や関係機関と協働し、対象者の生活を支援する担い手として、ランチの役割を發揮しながらもっと積極的に動けるようにする。 ・地域のおたっしやサークルに参加し、参加者と繋がったり、活動の場で一緒に介護予防活動に取り組んでみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ活動ができるスタッフが増え、広く様々な場へ参加できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続訪問やチェックリスト訪問が可能な職員が増えた。新たなサロンの立ちあげにも携わることが出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独り暮らしの人は引きこもりがち。集える場所は知っていても”自分が行ってもいいのかわか？”と思う人もいる。いまだに行きにくい状況もあるので、誘い合いながら参加できる何か1歩踏み出せるための取り組みがあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾進捗会議にあたり、はつらつ塾に参加し、担当の参加者の状況を確認したり、一緒に予防活動に取り組んでいく。 ・継続訪問の中で把握し理解していく事は、周囲の資源との繋がりが（関係性も含めた理解）や、どこにどのような資源があるのかを知る事である。訪問時は軒下マップを持参し、訪問ごとにその方の社会資源を一つ追記していく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・登録利用者の地域と登録利用者の繋がりを意識し、登録利用者を通してかかわり合いのある人の話を聞く。 ・「お抹茶カフェいっく」や法話・食事会と運営推進会議を活かした内容を検討して、地域の方と一緒に考える機会をつくる。参加者自らが社会的役割を有することで、そのことが介護予防につながるという意識を持てるよう生きがいづくりや役割・出番の場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お抹茶カフェいっく」の参加者が予防教室の講師となったり、役割を持ってボランティアで参加してくれる住民も増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップの活用が、対象者の周囲の資源や繋がりがから今出来る事に活かされたり、自分たちが地域のカや可能性を知っていくことの必要性を理解できると良い。 ・自分たちがランチとして出来る範囲で対応してしまいがちである。本人だけではなく、ランチの把握している社会資源も活用し、必要なら社会資源を創ったりしながら、本人を支えていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お抹茶カフェいっく」が住民の人の待ち合わせ場所になり、また予防教室も楽しみにしている。住民参加での教室などボランティアもでき、活躍できる場がある事は良い。 ・運営推進会議では積極的に自分たちも意見を言いたいので、分かりやすい内容を提示できる工夫がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会での事例検討会で地域福祉コーディネーター支援・間接支援について学び合い、日々の振り返りをする。 ・中堅職員研修修了者を中心に軒下マップを活用した継続訪問者についての話し合いを行う（ランチミーティング1/月）。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	いらっせ庄
施設管理者	森下絵美子
事業責任者	安田知世
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	「誰でも困っていたら助け合える町づくり」
------	----------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針			<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応については、全職員が相談内容を聞く体制にしている。 ・チェックリストについては、ほぼ全職員が訪問した。 ・地域型元気はつらつ塾にランチで訪問でかかわっていた方に、をつなぐことができた。 ・かがやき予防塾修了生と交流を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務に全職員が関わることは良いことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かがやき予防塾修了生と地域においてどのような活動ができるか、話し合いをしている。今後も継続し、実現していく。 ・地域型元気はつらつ塾の役割や活動内容、対象者、申請の流れについて把握する。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針			<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々が地域の方と関わりを持ち、地域の情報を持っている。その情報を職員間で話合う機会を設けるようにした。(地域の方にお聞きしたこと・乗り合いタクシーを利用している人は見かけるか・畑を続けていきたい等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のことはその地区の人に聞くのが一番。どんどん聞いたら良いと思う。誰に聞くか分からなければ、地区会館にまず相談すると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有の場に、職員会議や日々のミーティングを活用していく。 ・地域の方との世間話や何気ない立ち話も、地域を知るための情報であることを意識できるようにする。(ミーティングを継続し、情報共有することで意識できるようにする)
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針			<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップは関わった全員に作成している。 ・軒下マップから得た情報先に行った。 ・地域ケア会議の開催には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップがどういうものか初めて知った。軒下マップを実際にみせてもらい、関係性が分かりやすいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップを知らない職員に勉強会を行う。 ・職員間での情報共有の場や振り返りの機会に軒下マップの追記を行う。また、継続訪問者の軒下マップの追記も行っていく。 ・今後、地域ケア会議の開催が必要な場合に向けて、民生委員やサークルリーダーとの関わりを持っていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針			<ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークルの情報提供を必要な方に行った。 ・地域型元気はつらつ塾対象の方に情報提供し、参加につながった。 ・地域型元気はつらつ塾進捗会議にて参加者の状況把握を行い、支援の方法を考える機会にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾に来られて、実際に活動を見ることは良いことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾やおたっしやサークル、健康クラブ等、地区の活動に参加する。各々の活動の目的や内容、対象者を把握する。 ・職員間での情報共有の場に、職員会議や日々のミーティングを活用していく。 ・地域の方との世間話や何気ない立ち話も、地域を知るための情報であることを意識できるようにする。
5 地域福祉コーディネーター業務について			<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップは作成中である。 ・困りごとに対しまず、本人の力や知人、地域の方との関わりを知り、介護保険サービスは直ぐには考えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を地区会館に借りに来られたが、このマップ作りに必要だったと分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップを完成させる。 ・職員間で地域の情報共有を行う際に、職員会議や日々のミーティングにて、その都度社会資源マップに情報を追記していく。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	いらっせ湖城
施設管理者	福島 和江
事業責任者	荒木 伸治
ランチ設置年月	平成27年7月

目指す姿	隣近所が顔見知りになり、見守り助け合いできる関係になる。
------	------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・地域の方を対象に実施している「食事会」の目的を職員間で共有する。	・職員会議の場において、食事会をする意味、目的等を今一度考え、検討すべき点を皆で話し合った。その中で、職員一人一人、それぞれ思いや考え方、価値観は違うが今後の方針などを共有した。	・異動してきた新人職員も含め全員にアンケートをとり、食事会をする意味・目的を職員間で話し合った。食事会では、閉じこもり気味の方の外出機会を増やすという目的があるが、毎回決まった方が参加しておりマンネリ化している。また、食事会以外の企画も検討したが、職員一人一人の価値観や思いは違い、現実的には難しかった。食事会開催時には職員も地域住民の方から、地域の人の情報を聞いており、ランチ業務に活かす事が出来ている。	・食事会では、地域の方だけではなく、職員や湖城の利用者も一緒に参加する事で、出席者同士で会話も出来るしまた、繋がりも出来るのではないか。 ・食事会以外にも、テラスでカフェを開いてコーヒー等提供する場も出来るといい。そこで地域住民の方も足を運ぶ機会も出来、ランチについて周知できると思う。身近な相談窓口という事を知ってもらえるのではないか。	・食事会に参加している方の状況把握や困りごとの把握のために、職員も一緒に参加する。 ・食事会参加者に、参加者以外の地域の気になる人や生活しにくくなっている人がいないか等の情報把握する。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・社会福祉協議会・地区社会福祉協議会・民生委員にボランティアの数を確認する。 ・近隣の他の事業所の運営推進会議に参加し、地域の課題と一緒に考える。 ・食事会でボランティアについて説明し、参加者とともに自分自身が出来ることを考える。	・ボランティアの数を確認したり他事業所の運営推進会議に参加する事は出来なかったが、ランチの会議で地域課題の共有を計る事が出来た。また、食事会の参加者に対してボランティアポイントの説明を分かりやすく説明しようとするが、雑談だけで終わってしまった。	・他事業所の運営推進会議には全員が参加していない為、決まった職員とでは話し合い情報の共有はできているが、地域の課題を職員一同に検討するという場面は作れなかった。 ・地域の方にボランティアの説明をすることについては、食事会の開催時、職員が地域の方が参加して頂ける事に満足し、その場でボランティアについての説明はしていなかった。	・いらっせ湖城の広報誌に予定を入れて、もう少し周知してはどうか。また、その広報誌にボランティア募集など記入できるのではないか。	・他事業所の運営推進会議に参加し、地域の情報を知り相談時に情報提供できるようにする。 ・サロンやサークルの場でのボランティア参加の声かけと説明を行う。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・今後、個別地域ケア会議が必要な方がいれば、地域の方にも参加していただき開催する。 ・圏域にある介護サービス事業所の運営推進会議に参加し、参加者から圏域の情報を得て連携をはかる。	・地域ケア会議の開催はなかったが、他事業所、医療機関、民生委員など関係者との連携体制はできている。	・地域ケア会議は、相談時の関りが難しいケースはあったが、近隣の方の支援や移動販売、配食サービス等の利用により、生活に支障がないと判断したため開催しなかった。	・地域ケア会議では、例えばゴミ出しが出来ない、いつも見かける人が最近顔を見ないなど、早期に情報の把握が出来て顔の見える話し合いが出来るのではないか。また、地域の情報共有もでき、声かけが必要な方には、声かけすることも出来ると思う。	・軒下マップを活かして、地域とのつながりが途切れたケースや、生活しにくくなったケースの情報を民生委員や区長等と共有し、考える機会をつくる。 ・直接話したことの無い民生委員や区長に顔を覚えてもらい、双方で相談しやすい関係をつくるために定例会等に顔出ししていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・職員間でランチ業務に関する話し合いやランチ連絡会の内容を共有する事を継続する。	・ランチ連絡会の内容は、ランチ担当者間で共有している。また、職員全体では職員会議で、ランチ業務の重要性を伝え協力を得ている。	・今までに何回か、職員会議の場でランチ業務の重要性など話し合った。また、ランチ連絡会の内容はランチ主担当者で共有している。しかし、職員全員での情報共有に関しては、なかなか時間を作れず、出来る時と出来ない時があった。	・連絡ノートの作成であったり、職員会議や朝礼で申し送りする事はいいと思う。 ・地域型元気はつらつ塾の担当は決めたとの事だが、それ以外にも、地域ごとに担当者を決めたらどうか。	・ランチの研修、勉強会に参加した職員は、職員会議などで定期的に報告していく。 ・他事業所などと情報交換を行い、サークル活動の情報を得る。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・ケアマネージャーからの問い合わせがあれば、把握している地域の資源を提供する。 ・職員に片山津地区の相談窓口であることを、再度説明する。 ・地域の資源について、携帯できる一覧表を作成する。	・いらっせ湖城は、片山津圏域のこころまちセンターである事、身近な相談窓口である事を食事会の参加者やサロン・サークルに出向き伝えている。 ・地域資源の一覧表の作成は出来てない。	・ケアマネージャーからの問い合わせは殆どないが、介護サービスに結びつかない方には資源の情報提供を行っている。また、本人、家族の力を把握し、地域の方の協力の有無、社会資源等、何の支援が必要なのかを話し合いサービスについて考えている。 ・地域資源について壁に貼るマップはあるが、携帯できる一覧表は作成していない。	・本人や家族の困っている事。また、地域で、もう少し活躍したい人等々、情報収集することで、地域の方の協力を得られ、社会資源にも繋がると思う。	・ケアマネージャーから気になる方の情報を得て、ランチと協働してお互いに地域の課題に取り組めるようにする。 ・ランチ活動の中で、どの職員が訪問しても情報提供が出来るように会議内で共有していく。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	金明地区高齢者こころまちセンター
施設管理者	西 邦子
事業責任者	西 邦子
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	<p>病院、店がなく不便だが、隣近所の繋がりが強い。お互い助け合いこれまで通りの暮らしができる町に！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8町全てに「集う場」があり、ちょっとした相談が出来る場がある。 ・身近な相談窓口として、地域の中で支援を必要とする人々を把握し生活課題の早期発見に努める。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針			<ul style="list-style-type: none"> ・電話で受けた相談は、事業責任者に報告し対応している。 ・事業所行事「ミヤノ屋」「法話」に参加されていない方については、参加している住民に状況を聞いたり、訪問をしている。 ・塩浜町のおたっしやクラブ、小塩辻町のサロンに参加し「顔の見える関係作り」を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野田町にはサロンやおたっしやサークルのような場がない。野田町にもサロンのようなものがあつたらいいと話が出たが、サロン立ち上げには中心になる人がいないことや運営、書類作成等が大変との思いがある。 ・野田町と宮地町の折り合いが難しいが、体操をする場として公民館を貸すことはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ活動の職員を4名から7名に増やす。 ・チェックリスト訪問は町ごとにスタッフを決め担当制にする。 ・「体操が出来る場（予防）」として公民館は使用できるので住民と一緒に考える。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針			<ul style="list-style-type: none"> ・野田町や宮地町の方の状況は、ほぼ把握している。 ・「塩浜町おたっしや・クラブ」に参加するようになり、少しずつ顔がわかるようになった。 ・金明地区として「交通の便が悪い」「店がない」「移動販売かもまる君を利用しているがたまには買物に行きたい」「集まる機会がない」「サロンやおたっしやサークルをしたいが、中心になる人がいない」との課題は把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会で年1・2回金明地区高齢者こころまちセンターについて紹介すればいい。 ・民生委員の定例会のあとに金明地区6人の民生委員の方と話す機会をつくれないうか、会長に相談していく。 ・民生委員が気になる方をランチと一緒に支えていければいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会に参加する。 ・金明地区の民生委員との意見交換会を行なう。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針			<ul style="list-style-type: none"> ・相談を受けた方やチェックリストでかわった方の軒下マップは作成している。 ・塩浜町の方には「塩浜町おたっしや・クラブに行かないか」とお誘いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップについて、個人情報なので話したくない人もいるだろうし、調べるのは大変だと思う。 ・年に1回でもいいから金明地区で認知症テストのようなものをしてもらえないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップの勉強会をする。 ・訪問の際地域との関係を聞く。（軒下マップに記入）
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針			<ul style="list-style-type: none"> ・「塩浜町おたっしや・クラブ」には、出席簿がわかりやすく表示されており最近欠席の人も一目瞭然と確認できる。 ・ケアマネージャーへの引継ぎは、状況も含め軒下マップを丁寧に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塩浜町で行なっているサークルは知っているが、名簿を作って分かりやすくしているのはすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「塩浜町おたっしや・クラブ」に参加しなくなった方の訪問を行う。
5 地域福祉コーディネーター業務について			<ul style="list-style-type: none"> ・相談を受け訪問に伺った際、介護保険サービスは最後の提案にしている。まず、本人の状態確認を行い、家族さんのできない事は何か等聞き取りその時に適切だと考えた支援を提案し基幹型に報告している。 ・担当ケアマネージャーには軒下マップで地域資源の情報提供を行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを知るために宮地町の人もここに来ているので、宮地町のマッピングもしたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知るために、持っている情報を「見える化」するためにもマッピングは必要。 ・8町の「集まる場」「1人暮らし」「気になる人」などのマッピングを行なう。 ・「かも丸くん」の軒下マップを作成する。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	橋立地区高齢者こころまちセンター
施設管理者	山崎 麻子
事業責任者	岡安 努
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	遠い親戚より近くの住民～ちょっとし不便かもしれんけど、安心がある町！橋立～ ●人と人、人と場のつながりが途切れず、途切れている場合は結びなおし、つながっていない場合は新たにつなぎ、更には次世代へつないでいくことで、年齢や障害の有無に関わらず、安心して暮らせる町づくりを地域の人と一緒に取り組みます。 ●まずは、地域の人に気軽に「ねえ、ねえ、姉ちゃん、兄ちゃん、ちょっと、ちょっと」と相談してもらえる関係づくりを目指します。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の改選があったので、改めてランチについて民生委員に周知し、地域の相談支援体制について共に検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月の民生委員定例会に参加した。改選後の新たな民生委員の方々にランチの活動内容やこれまでの相談実績、内容等について報告した。また、民生委員の方々からは具体例で「どのような場合に相談していいのかわかるか」等について意見交換し、民生委員の方々にとつての相談窓口としても機能したいことを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月の民生委員定例会に参加し、地域型元気はつらつ塾の振り返りを行った。その場で、再度ランチへの相談の経路について共有した。 特定の民生委員からの個別の相談が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 片野町にサロンを作っただろうか。 田尻町の地域おたっしやサークルについて、中心になって活動していた方が退くことで、解散になっている。参加者も多いので、地区としても何とか立ち上げたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談体制について、毎日ランチの副担当者を配置し、また、ランチの日報に全職員が記載する「サイン欄」を設け、全員がランチ活動に関心を持ち関与する意識を高める。 片野町サロン設置に向けて、要になる民生委員等と必要性、内容、継続可能な方法等について、相談していく。 田尻町の地域おたっしやサークルについて、ニーズを改めて確認し、再開に向けて老人会等と相談していく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に取り組むべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 基幹包括との情報共有は概ねできているが、ランチ職員への伝達できていない。情報を共有するための時間の確保を行う。 日頃の住民との繋がりの中で、敏感にニーズをキャッチしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチ活動の要になる職員との情報共有の場を月に1回新たに設け、実施している。 定期的な見守り等が必要な方については、事業所の訪問に合わせて定期的に訪問することを全職員と共有できた。 初期相談対応ができる職員増やすことには至っていない。 地域型元気はつらつ塾や事業所が開催する集いの場「おでんの会や手芸サークル」を通じて、社会的活動に関心のある方の把握や、興味がありそうな方には、情報提供をしている。しかし、日中、仕事や他の役割が多く、新たな活動に参加できる方が少なく、どのように輪を広げていくか課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有の場を月に1回継続して実施しているが、情報共有には至っていない。 地域型元気はつらつ塾や事業所が開催する集いの場「おでんの会や手芸サークル」、町の祭りでの展示等で活動していることを発信し、興味関心のある方の発掘に心掛けた。 	特に意見なし	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の事業所内ミーティングで、地域の実情の報告を行うことを定例にする。その場合、小規模多機能型居宅介護事業の登録者の地域の実情を意識して共有することで、全職員が身近な課題として捉えられるようにする。 ボランティアのニーズ等については、日頃の住民との繋がり（運営推進会議、サークル活動等）の中で、ニーズをキャッチして、必要な活動に繋げる。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 必要な場合を敏感にキャッチし、適宜実施できるよう取り組む。 個別ケア会議等について地域や関係機関に開催する目的を明確にして周知するなど、ランチで会議を開催する支援をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議の実施には至らなかった。引き続き、相談やチェックリスト訪問等、ケースを通して、地域の課題を導き出し、必要性を把握し、開催できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップは作成しているが、作成しただけになっており、その後の発展ができていない場合が多い。 チェックリストについては、関わりの頻度が低く、つながりの「途切れ」まで把握するには至っていない。 	特に意見なし	<ul style="list-style-type: none"> 個別地域ケア会議や地域ケア会議は、必要な場合に適宜実施する。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域にサークルやサロンがあっても足腰が弱ってそこまで行けない問題があった。地域型元気はつらつ塾が、はしたて地区にできたので、対象者の理解をランチや協力員、民生委員などとも共通理解して介護予防として必要な方に紹介参加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチの個別訪問を通じ、訪問対象者やその家族のニーズに応じて地域型元気はつらつ塾の情報を提供し、参加につながった方もいた。 高尾町については、サロンが立ち上がり、月1回の開催を継続している。引き続き、定期的に参加し参加者の方々との関係性を深めることや、今後、サロンの参加が必要な方には紹介してを繋いでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> おたっしやサークルや地域型元気はつらつ塾に定期的に参加している。また、情報提供をし、実際に参加につながった方もいた。 他の地域に比べ地域型元気はつらつ塾に参加する方が少ないと認識しており、潜在的なニーズがあると推測される。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員より、地域型元気はつらつ塾について、制度が分かりにくい（デイサービスとの違い、類似サービスとの併用の可否等）、利用がしにくいと意見があった。 協力員の増員については、橋立町以外への周知が充分でないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域型元気はつらつ塾について、類似サービスとの併用の可否について整理する等、ニーズに合わせて地域型元気はつらつ塾の機能や地域での役割を基幹型包括と協議していく。 協力員について、現在は橋立町の方だけなので、他の町の方に参加してもらえよう、周知方法等を検討する。保健推進員にも内容の検討や協力員として参加してもらえないか事業担当者、基幹型包括、健康課等を交えて協議する。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの居宅介護支援事業所を訪問し、ブランチ活動について理解を説明したが、全居宅介護支援事業所には至っていないため、今後訪問し個別に話を伺う。 ・社会資源マップ作製の目的や意図を全スタッフに周知できていない。各町のキーになる人や場所、独居世帯や高齢者世帯など見守りが必要な方に対して、出来る限りその方の生活を把握し、ブランチや基幹型包括だけでなく、本人や家族の意向に応じて、近隣住民にも働きかけができるようにしたい。また、作成した社会資源マップの更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の相談等を通じてブランチの理解が深まってきていることを感じるが、特定の居宅介護支援事業所との関係に止まっている。引き続き、個別に相談や事業所周り等を通じて、お互いの連携の在り方等について確認していきたい。 ・前年度末からマップの更新ができていない。運営推進会議においても、マップの更新について地域の方から提案があり、更新に取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランチ職員全員がどのような介護保険サービスがあるか理解できておらず、相談があっても対応することができない場合が想定される。 ・十分な地域資源マップは作成できていない。既存のものに追加修正するには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源のマップづくりについて、全地区での実施は各町の機運の度合いにもよるため、まずは、サロン設置が検討されている片野町のマップづくりを、区長や民生委員と一緒に検討し、必要に応じて他の住民を交えて作成してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス等の知識については、事業所内で学習会等を開催し理解を深める。 ・社会資源マップ作成は、片野町において、区長や民生委員に相談する。 ・既に社会減マップ作成済みの橋立町のマップ更新を行う。その際に、興味のある他の町の民生委員に呼びかけ、作成作業の見学をしていただき、今後の参考にさせていただく。 ・地域福祉コーディネーターについては、第2層協議体の設置を意識し、まちづくり協議会と相談していく。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	動橋ひまわりの家	目指す姿	地区の目指すべき姿 地域住民同士が助け合える町作り 地域住民→動橋地区（ご近所・サークルやサロン仲間・友人・預金講含む）+小規模ひまわり助け合う→互助の精神・持ちつ持たれつ・助け合い組織・自治体や各関係機関の助け合い
施設管理者	庄司 美樹子		
事業責任者	村上 由花恵		
ランチ設置年月	平成27年9月		

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動への参加や、地域資源の把握などを計画的に全職員が関わることで、地域住民との関係性を深める。チームとして地域の様々な社会資源をつなぎネットワークが構築できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が交代で「おちゃや」に参加できるよう計画し、1回/月必ず参加することができた。回を重ねるごとに参加者とも顔見知りになり、参加する職員の意識向上もみられている。 事業責任者が積極的に、サークルや体操クラブに参加し関係づくりを図った。 地域の座談会や集会に参加し、地域住民と関わる機会を増やし、地域の一員として認識してもらい、地域と一緒に考えていく関係づくりを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おちゃや」の参加は、職員交代で1回/月必ず参加することができた。回を重ねるごとに参加者とも顔見知りになり、参加する職員の意識向上もみられている。また、訪問等で紹介する際も実際に参加する事で勤めやすくなった。 事業所の運営推進会議や地域の会合に積極的に参加し、地域住民と関わる機会を増やし、地域の一員として認識してもらえ、気になる事等を気軽に伝えてもらえる関係づくりを意識した。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のことはよく知っており、相談すればいいところと思っているので、新しい町民会館建設にあたり、意見をもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動へ全職員が参加し顔見知りの関係を築く事ができるよう、計画的に参加できる工夫をする。（当日の役割分担に担当決める） 活動に参加する際には、参加されている方々の現状を把握したり、地域の課題やニーズを把握できるように意識して関わる。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 加賀市の現状や実態把握につとめ、特に担当区域の実態を把握し、課題分析する。 課題分析した結果、重点的に行うべき項目について、地区担当と協働し、計画的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業責任者・管理者が中心となり、新規ランチ研修会や地域の座談会、民生委員定例会、推進会議などにて、動橋地区について情報収集し、把握した情報から地域のニーズを確認したが、把握した実態を分析し、具体的に取り組む計画までには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 把握した情報から地域のニーズ・課題が少しずつ見えてきているものの、地域住民とともに課題に対して話し合う機会がまだないため、具体的に取り組む計画までには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 動橋町の人からは相談もあり、関係作りができていと思うが、ほかの合河町や中島町等の相談はどうなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所で、職員が担当区域の実態を把握し、課題分析する機会をつくり、取組に対する意識を統一する。 動橋町以外の町について、地域住民と意識的に関わるように心掛け情報収集し、関係を広げる。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 「地域型元気はつらつ塾」の取組み実現に向けて、運営推進会議や地域活動参加の際に積極的に推進していく。また、専門職など関係者との、地域ネットワーク構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員定例会へ毎月出席することが継続できている。 民生委員定例会へ出席することで、関係性が築け事業所の運営推進会議と連動して話ができるようになってきている。 「地域型元気はつらつ塾」開催に向けて、地域の各団体役員の方々と顔合わせを行い、趣旨を説明する等取り組み、協力員、塾生ともに意識して関わるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域型元気はつらつ塾が開催され、職員が交代で参加できるようになり、事業所職員や参加者、協力員ともに意識して関わるようにしている。 民生委員定例会へ毎月出席することが継続できている。 民生委員定例会へ出席することで、地域の課題を共有できるようになったが、具体的な解決策までは話合うことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 班長が福祉協力員なので、毎年交代するので、難しい面はあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップからのつながりを意識して、個別ケア会議の開催や地区単位地域ケア会議につなげる事ができるよう取り組んでいく。また、民生委員の方々との関係を密にし、協働して意見交換の場ができるようにする。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で、各職員が地域の活動等に参加し、関係づくり・実態把握・情報収集ができるよう計画的に行う。 職員が情報を知ることにより、的確な情報提供ができるようにし、つなぎ役となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者や事業対象者の自立支援に対して、介護サービスや住民主体の活動などを事業所職員が理解し、マネジメントできるように事業所の見学や各活動の参加など職員が学び体験した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域型元気はつらつ塾」が開催され、職員が交代で参加できるようになり、事業所職員や参加者、協力員ともに意識して関わることで関係づくりや情報収集ができるようになった。 職員が参加し、顔を合わせたことで電話の対応が容易になったり、的確な対応ができるようになってきている。 	<p style="text-align: center;">特になし</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域のサークル等へ顔を出し、活動内容を知ったり、活動に参加されなくなったり、気になること等情報をもらえる関係を築く。 「地域型元気はつらつ塾」の進捗会議に出席するなど活動に参加されている方々の状況確認を定期的に行う。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> 資源マップが活用できるよう、事業所内に掲示場所をつくる。 公的サービスのみでなく、地域の様々な活動につなげられるよう調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリスト訪問時等軒下マップ記入の際は社会資源を意識し、個々の社会資源を把握する中で、地域の社会資源として相互につなげることができるよう、資源マップを掲示したが、活用できていない。 商工会の協力のもと、動橋地区福祉マップの制作案があったが、具体的に進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 動橋商工会の方々との協働で資源マップ作成を計画していたが、事業所側から催促することが難しく進展しなかった。 職員が目にする場所の掲示ができず、タイムリーに更新されていないため、マップが活用されていない。掲示方法の工夫が必要。 	<p style="text-align: center;">特になし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ランチ連絡会などで、他ランチの活動を参考にし、担当地区の課題に対して具体的な取組について地域住民と一緒に考える機会をつくる。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	いらっせ 分校
施設管理者	北川 英明
事業責任者	内村 好美
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	いつでも気軽に相談できる町
------	---------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針			<ul style="list-style-type: none"> 平成29年10月より設置となり、地域のサロンへランチの周知活動を行うことができた。地域の公民館などでの集まりにも参加でき、ランチの役割についての説明ができたと思われる。また、地域の方の交流できる機会やランチを知っていただく、機会として、月1回の事業所での食事会の開催ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチの説明はサロンや集まりではしているが、まだまだ理解できていないことが多い。 サロンだけではなく、色々な世代に知ってもらえるような取り組みがあってもいいのではないかな。 ランチという言葉よりも別の言葉に出来ないかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> 分校地区こころまちセンターを知っていただくための周知活動を行うことで、早期での出会いに結びつく。今後もサロンや集まりへの参加、小学生等と地域交流をしていきたい。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針			<ul style="list-style-type: none"> 早めの相談へのつながりや早めの出会いができる地域作りのため、ランチ機能の周知の活動ができている。相談については、件数は少ないものの対応できており、地域資源や社会資源の説明を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ギリギリまで、家族が頑張らなくてもいいように、早めに相談できる環境があることはありがたいし、社会資源が知れることはいい。 若い世代（介護を抱える世代）への周知必要だと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を知り、早めのつながりを作るためへの周知活動を行う。 社会資源については、加賀市全域のものから、地域限定のものがあるため、随時相談があった時には情報提供をしていきたい。そのために、地域の方から教えていただいたりなどの情報収集をしていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針			<ul style="list-style-type: none"> ランチでのケース検討会は実施しているが、地域ケア会議の開催はなかった。民生委員の会合には参加はできている。事業所の運営推進会議でも地域の方に助言をいただき、地域の方とのネットワーク作りも実施している。ただ、参加できる職員が決まっておらず、今後は他職員にも参加をし、ランチのあり方について意識していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員とのつながりは今後も必要と感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や医療機関、介護事業者とのネットワーク作りをしていくために、定例会や研修会などへ参加をしていき、周知活動や情報交換をしていきたい。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針			<ul style="list-style-type: none"> 地域サロンへの参加ができている。ランチ活動を全職員で行っていくために、職員への連絡や研修など復命を行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度についての説明をわかりやすく聞けるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域サロンへの参加を続けていき、ランチを知っていただくことをしていきたい。また、身近な相談ができる場所があることや、分校ランチの役割を知っていただく機会を作っていきたい。
5 地域福祉コーディネーター業務について			<ul style="list-style-type: none"> 社会資源については、全職員が見て分かるように一覧にすることができた。今後地域での資源が増えた時には随時更新していきたい。地域の方や医療機関、ケアマネージャーなどからの相談があれば、対応していきたい。また、開設間もないことから、相談対応できる職員が少ないため、同行訪問やシュミレーションを行い、対応できる職員を増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源内容については、高齢者でもわかりやすく説明が聞けるといい。特に地域柄、移動手段、配食サービスなど、1人暮らしが増えてくるので、新しい情報が知れるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> 分校地区ならではの不安や困っていることを知ることで、情報提供ができるので、地域の困りごとを知り、情報提供していきたい。 ケアマネージャーや医療機関とのつながりを作ることで、情報共有をしていきたい。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	いらっせ松が丘
施設管理者	村上 弘 樹
事業責任者	小林 美 紀
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	住み慣れた地域で安心して暮らせるように 「助け合える関係性・自分自身の健康づくり・場所とのつながり」を作り 「一人一人がつながり、もしもの時にも備えておける地域」となる
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 職員個々がランチの一員という意識で関わる。 介護予防の取り組みについての理解を深める。どのような取り組みをしているのか知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 初回や継続訪問は、3人の職員がメインで行っている。チェックリスト訪問については、全職員で分担して訪問する予定。 チェックリストの意味や総合事業についての勉強会を行った。今後は、職員全員に加賀市の「ガイドブック」を渡し、不明な点を説明する勉強会を行う予定。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストは、全職員に振り分けて訪問できた。 介護予防の取り組みについて、事業所内で勉強会（総合事業、地域型元気はつらつ塾、筋力向上トレーニング教室、かがやき予防塾、地域のおたっしやサークル等について）を行った。 	(特にご意見は無かった)	<ul style="list-style-type: none"> 住民を巻き込んだ地域で高齢者を支える取り組みについては、まずランチの一員として地域を知る必要があるため、地域のサークルやサロンに参加して活動内容および参加者の様子を知る。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有の場として、毎日朝夕のミーティングと毎月1回の職員会議、事業所内ランチ勉強会の機会を活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、職員会議とランチ勉強会でランチの活動報告や学んだことの共有を行っている。毎日朝夕のミーティングでは、ランチとして訪問した時に、その概要を報告している。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日朝夕のミーティングや毎月の職員会議・事業所内ランチ勉強会を活かしての情報共有は継続している。 	(特にご意見は無かった)	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で個々の相談から地区のニーズを考える。またそのニーズから、松が丘地区の地域ケア会議の開催を検討する。 訪問した人の事例検討を行う。（ブロック連絡会での事例検討内容を事業所内で振り返る場合もあり）
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップの必要性を再度確認するためにランチで勉強会を開催する。 事例検討を行い、モニタリングの時期の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のブロック連絡会で事例検討を行っているが、事業所内では事例検討を行えていない。軒下マップの勉強会も行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロック連絡会での事例検討は継続したが事業所内での事例検討や軒下マップの勉強会を行えなかった。 訪問した人のモニタリング時期の確認も十分には行えていない。 	(特にご意見は無かった)	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップの勉強会はブロック連絡会で開催する事を提案する。 モニタリング時期の確認は、連絡会等で他事業所の考え方を参考にし取り組む。 個別地域ケア会議は、必要な人に対して基幹型包括と協力して開催したい。 地域とのネットワークの作り方は、連絡会等で他事業所の方法を参考にする。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域おたっしやサークルへ参加し、つながりを作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「松が丘おたっしや会」に複数回参加した。今後、松が丘のサロンにも参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「松が丘おたっしや会」への参加は続けている。 「松が丘いきいきサロン」には地域の方を紹介し、一緒に参加できた。「山田町のやおい健康クラブ」にも参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会への参加も検討したらどうか。 継続的にサロン等に参加してなじみになることは大切。どれだけお互い知っている関係性になっているのかが大事。参加して顔がわかる関係づくりが大切。 今度、高齢者の一人暮らしの集まりにも参加してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務分担表にその日のランチ担当者を追加で記入し、管理者以外の職員がサロン等に参加できるようにする。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源のマップを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源マップを完成させられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源マップは完成させられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 作見地区の住民の座談会に参加して、地域の人から地域の情報を得てみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源マップは、さくみランチと協力して地区として作成し、その後は随時追加していく。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	作見地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ハウスさくみ
施設管理者	横倉 ゆか
事業責任者	山口 紀久代
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	一人一人がつながり もしもの時にも備えておける地区
------	---------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 複数の職員で役割を持ってかわっていきよう努める。 小規模多機能の利用者のうち、作見地区の利用者の近所の人に挨拶したり、声を掛ける。また、サークル、老人会に顔を出していき、顔の見える関係を作れるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチ活動自体は現在8名程の職員でかわっている。 作見地区の利用者の近所への挨拶は出来ている。 各サークルへは特定の職員の参加になっているので、参加する職員を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各サークルへは特定の職員のみ参加になっていた。 小規模多機能の利用者のうち、作見地区の利用者の近所への挨拶は、継続してできている。 ランチの事業所の近隣の方とも挨拶だけでなく、社会資源などの情報収集を意識した会話ができて職員が増えてきた。 ランチ業務にかかわる機会がなかった職員がチェックリスト訪問に同行することでランチにかかわる機会を作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の中から、「ランチ業務に関わる事が出来ないため、できていなかった。」との意見があるが、相談やサークル等に参加しているだけがランチ業務ではないのではないか。 小規模多機能として関わっている同地区での声掛けや挨拶も地域の顔つなぎである。送迎や訪問時等に見かける人たちを気にかける事もひとつの見守りではないか。 挨拶、声掛けなどはランチ、小規模の線引きをせず、すぐ出来る事から意識していくといい。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能の利用者のうち、作見地区の利用者の近所の方には挨拶、声掛けは継続していき、さらに一歩踏み込み地域情報等を頂けるような会話に努める。 今年度は特定の職員がランチ活動をしてきたため、来年度は各サークルに2名の職員を配置し担当制とする。 サークルの日程確認を担当者が行うことで、職員一人一人がランチ業務を意識でき、サークル参加をきっかけに地域との関係づくりに努める。 各サークルの日時、担当者が分かるように、ミーティングノートに表示する。 サークルに参加する意味、目的を再確認するため、職員間の認識の統一を図る研修を行う。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等から世帯数を調べ把握する。 課題やニーズを把握するためにモニタリング表を作り、相談ケースからまとめてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世帯数を調べていない、ランチ勉強会を開催できていない。 ミーティング時にランチの対象者について課題、ニーズを確認、相談ができ、対象者の情報が共有できた。昨年度の初回訪問した相談ケースから課題やニーズを整理した。 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀市のホームページから、作見地区町内別の年代や世帯数を調べたが活用には至っていない。 昨年度の課題やニーズの整理はしたが半年分の為、整理した情報からは具体的なニーズ、課題が見出せていない。 今後は相談ケースだけでなく、住民からの情報を収集するためにもサークル・サロンに定期的に顔を出せるように努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各町の特徴、違いは見えているか？町によって一人暮らしでも特徴が違う。(A町は一人暮らしだが近くに親族がいる。B町は町の方が支えているというケースがあった。C町は親族が遠方、身寄りがいない方が多いと返答した) 町ごとで把握で出来ているのは良いと思うので、今後も続けて行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> おたっしやプラン第7期計画でまとめた地区の実態(統計データなど)の資料を用いて、ランチ内で勉強会を開き、作見地区の変化と現状を職員で知る。 相談の方やチェックリスト訪問の方から課題を町ごとに見出ししていく。 町ごとにまとめた課題から、みえたニーズを職員で把握する。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能の利用者のうち、作見地区の利用者の軒下マップを活用して、事例検討を行う。 ランチの対象者で軒下マップを活用して、事例検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップの作成のみにとどまっており、活用できていない。 小規模多機能のご利用者から事例検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップの活用方法についてランチ事業所内で話し合い、記入方法を検討した。 ランチ対象者の事例検討を計画したが天候等の理由により開催できなかった。しかし、小規模多機能の利用者の事例検討は開催できた。 作見地区元気はつらつ塾の立ち上げから参加することで、まちづくり推進協議会の会長や民生委員、保健推進員、食生活改善推進員、地区社協の方々との新たな人脈とつながることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に意見はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域型はつらつ塾の立ち上げから関わることが出来、まちづくり推進協議会の会長や民生委員の会長と顔なじみになることができた。更に地域型はつらつ塾の協力員として民生委員、保健推進員、食生活改善推進員、かがやき予防塾修了生等の方々とのかわることができたので、ネットワークの構築の為に運営推進会議だけでなく、地域型元気はつらつ塾を通してつなぐ関係を継続していく。 訪問した際には軒下マップを作成しているが、活用はできていないので、ランチ内で事例検討を継続していき、定着に努めていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> サークル参加の機会を意識的に作り、地区内5か所のサークルに月1回、どこかに参加できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の職員のみサークルに参加している。継続して参加しているサークルには、他の職員も一緒に参加していく。 1回しか参加できていないサークルには、サークル参加者と話をしたり、体操を一緒にする時間を共有し、顔の見える関係づくりのために、今後も参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の職員が全サークル・サロンへのランチの周知は出来た。意識的に機会を作り、月1回サークル、サロンへは参加は出来た。 サークル参加者との時間を共有することは少なく、今後は意識的に時間を共有できるように努め、参加している方からの情報をもらえるような関係を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に意見はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は各サークルに参加する職員を担当制とする。 ランチ職員が、サークルに参加した際の色々な情報(地域資源、一人暮らし、高齢者世帯、気になる方、サークル内の現状など)や感想をその場でノートに記入する。 様々な情報を意識的に聞くことで、知り得た情報を事業所内の月1回ミーティングで共有し、今後の相談の情報提供に生かす。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> 地区の社会資源マップを作成し、作見地区にある資源を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作見地区として、いらっせ松が丘ランチと共同で今年度、地区の社会資源マップを作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談ケースに応じての社会資源の情報や資料の収集はしているが、収集した情報を整理できていない。地域の社会資源の情報収集するために担当割を行った。情報の統一と情報を聞き出しやすくするためにも確認項目表の作成をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源マップ作成のスケジュール、研修等の年間計画表を作ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源マップの作成は継続して取り組んでいく。 確認項目表を使い、まずは収集している資源を書き出していき。(H30.7月) 収集した書類、地図の整理をしていき、誰が見てもわかりやすいように作成する。

平成29年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山中地区高齢者こころまちセンター	目指す姿	『地域に住んでいる誰もが気楽に話し合える仲間やホッとできる居場所がある』
施設管理者	高田 君子		
事業責任者	高田 君子		
ランチ設置年月	平成27年9月		

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 相談業務や地域の方々の見守り、地域での集い等、職員全員で関わることを前提に、地域のニーズに応じて職員一人ひとりがそれぞれの力を発揮できるよう、またやりがいをもてるよう役割分担を行う。 年間の活動計画を4月目途に作成する。企画及び担当者も早急に話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに年間計画を立て、企画及び担当を決めた。役割分担を行い、各自の得意なところが発揮でき、全職員がランチに関わることができた。ランチ業務にあまり携わることが少ない職員もさろんの集いを通して関わることができ、ランチ業務のやりがいにも繋がったのではない。 目指す姿の半年後の目標としていた「知り合いを5人つくる」こともほとんどの職員が目標を達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回のさろんの集いが継続開催できた。参加者同士が互いに気にかけてあったり、困り事を言える関係性がうまれた。また、ランチへの相談しやすい関係性になっている。集いの内容は参加者の困り事等の意見をもらい企画した。参加者が講師をすることで参加者自身の活躍する場にもなっている。 相談業務で躊躇する職員が集いを通して地域に繋がる機会を得ることができ顔見知りの人から声をかけられたりとする気になっっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 近くに相談できる所があることで心強い。以前、相談して関わった方の経過はどうかと質問あり。 	<ul style="list-style-type: none"> さろんの集い開催は、今年度も介護予防の場として継続し、ランチは、後方支援を行っていく。参加者には内容や準備等、役割を担ってもらう。内容については、日頃の困りごとや気になることをお互い出し合い、一緒に考えたり講師役も得意なところで力を発揮できるよう促す。参加者自身の会であることを意識できるよう関わる。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 相談があった場合は早めに相談票に記載し、職員間で情報の共有を図る。また、週に1度課題抽出を丁寧に行い、考える時間をつくる。 ボランティアやサークル活動については、職員が自信をもった説明が行えるよう、次年度は積極的にサークルに出向き活動の把握を行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談があった場合、早急に相談票を記入し職員皆が相談票を見ることができるようになっているが、相談票を確認が徹底されていない。 週一回のランチミーティングの時間が十分にとれないため、今後は申し送りの前後にランチの報告及び課題抽出の時間をとることとした。 ゆざや以外で開催されるサークルへ参加できていないので、今後は参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> タイムリーな帳票作成が十分でなかったため、口頭で伝える等、情報の共有にも差し障りがあった。優先順位を再度見直す必要がある。 サークルにおいては一人ひとりが目的を把握していたかは疑問である。実際、サークルに参加することは不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣に一人暮らしの高齢者世帯が増え、互いが助け合いができるよう月2回集まり、その時々問題について話し合っている。買物や趣味活動等、外出の際の移動手段がなく、一人で送迎していたが高齢者の運転ということもあり、他者の送迎を中断することになった。高齢者の外出時の移動手段を地域の問題として考えている。また、一人暮らしの緊急時の対応についても心配な状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネート業務が円滑に行えるようサークルに参加する目的を考えたり、地域の資源を各自が把握することに努める。 地域から得た課題について地域ケア会議を開催し、皆で考える機会をもち、各団体や機関に働きかけ、機会もつ。構成メンバーや開催時期・目的等について地域より意見をもらい、今後日程調整を行う予定。今後早急に段取りを行うことに努める。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 相談を受けた後は、記録を書くことが日頃の流れとして行えるよう、職員間で配慮を行っていく。 地域にある事業所と意見交換の場をもち、連携を図っていく。地域ケア会議の開催においては、タイムリーに開催できるように取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が相談票の記入はできているが、手続が必要な書類の記入方法や手続きの流れについて全職員で理解する必要がある。 地域の事業所と繋がりをもつため、山中圏域のケアマネージャーとの交流・意見交換・地区の課題出しの場を3カ月毎に設けた。 地域ケア会議については必要時開催することができ、今後についても随時開催していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録物は、早急に作成できるように相談票作成時は内容を整理して書く方法を職員に伝えた。 ランチ対象者の関わりから、地域の銀行やコンビニ、民生委員、地区社協等と情報共有し、即時対応ができた。また、その繋がりからその他の相談も増えてきた。 必要時、地域ケア会議に繋げて解決の話し合いを行っている。ケアマネージャーとの圏域会議も継続して開催し地域の実状を話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 包括以外の相談はどんなところからきているのか。民生委員としては、窓口が身近なところにあり助かっている。 先日参加した地域ケア会議の場で意見を言ったが、あのような内容で良かったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域に出て住民、一人ひとりの声に耳を傾け、課題やニーズについて考える機会を大切にする。その上で地域ケア会議や圏域会議を継続して行い、問題提起や改善へと働きかける。 相談業務においては、事業所全体で進捗状況が把握できるよう、受付簿の作成を行い、随時必要な帳票の作成を行う。また、地区担当とも2週間に1度、進捗状況の報告やケースの情報の共有に努める。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> サークルの参加者や世話役方と繋がりをもち、活動内容をお聞きし、休んでいる人や気になる人の情報をもらう。 各地域の地域の情報や地域ニーズを知るため、まちづくり推進協議会と繋がることを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆざやで開催されているサークルに参加し、サークルのお世話係の方や顔見知りの方から地域の方の情報が入ってくるようになった。 地域の情報を知るため、まちづくり推進協議会に出向き、毎月温泉地区広報や町の行事等を聞き、連携を図ることとなった。更に、山中地区こころまちセンターのチラシも置いてもらい、困り事があった場合繋げてもらえるよう依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> しゃくなげカフェに継続して参加することで参加者の把握や日々の生活状況を知ることや、来ていない方の訪問にも繋がった。また、情報提供にも繋がっている。 事業所全体としてサークルへの参加目的を感じながらも不十分であった。 まちづくり推進協議会と繋がることについては顔見知りの関係にはなったが、進展もなく今後密な繋がりをもっていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> しゃくなげカフェには沢山の高齢者がきているが、サークルにランチ職員が参加してくることで馴染みになり、休みがちな人がわかったり、ランチの訪問によって再度参加につながった人もいた。その場で気になる人の話もお互いに話すことができるので助かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチの活動、コーディネート業務について、ランチ・ブロック連絡会の事例検討会を通し事業所全体で取り組んでいく。 事業所内での勉強会を年3回企画し、全職員が地域包括ケアシステムや資源マップの必要性を理解する。 サークルの参加は、月ごとに担当を決め、目的を持ち参加する事や次回の担当者に繋げることができるよう地域資源簿の活用を行う。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のまちづくり推進協議会やサークル、様々な機関や拠点、お世話係り、近隣と繋がりをもち、地域資源の把握に努め、必要時は適切に繋げたり、後方支援を行う。 ・今年度は東谷地区、温泉地区での集いを開催し、閉じこもりがちな方の地域の拠点として活動していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域のケアマネージャーとの会議を継続し、地域の社会資源の情報の共有、今後は地域の課題についても話し合いを行っていく。 ・まちづくり推進協議会との連携において、今後は他地区のまちづくり推進協議会とも繋がることを図っていく。 ・今年度から始めた東谷地区、温泉地区での集いが定着してきた。参加者から地域の資源や住民の情報をもらい、顔見知りを増やし地域の協力者や支援者とも関わりをもっていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源や情報の共有をケアマネージャーの圏域会議や集いを通してできてきた。しかし資源マップ等、共通で把握する資料の作成は不十分。 ・個人の軒下マップを聞くことはできていると思われるが、活用は不十分なところもある。 ・集いにおいてランチは、後方支援ということを念頭において参加者が自主的に考えてもらえるよう促してきたため、参加者より内容の意見をもらっている。参加者が定着してきたこともあり、企画全体も担ってもらえるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議での報告から、軒下マップという物があることを知った。事業所だけでなく、関わっているもので共有できると良いと思われる。 ・さろんの集いの参加者はゆざやまで歩けない方や地域のサークル等に合わない人が来ているので、さろんの集いをする必要はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップの追記を丁寧に行い、本人の資源やネットワークの活用など深める。また、まちづくり推進協議会や地域の機関につながることを行い、地域の情報を把握し、ランチとして各機関などから問い合わせなどの際、情報提供がスムーズに行なえるよう、地域資源台帳の見直しを行い、支援マップ作成につなげたい。